

財団法人日本タイ協會々報

第十七號

昭和十四年十一月

贈呈

昭和十四年十一月

法財人團 日本タイ協會々報 第十七號

法財人團 日本タイ協會



財團 日本タイ協會々報第十七號 目次

口 繪 寫 眞

國際文化振興會より本年十二月月上旬、曼谷に於て開催せらるゝタイ國憲法祭紀念博覽會に出品せる山車

新 聞 論 調

○タイ國に於ける華僑彈壓……………一

資 料 欄

○タイ入國法改正……………四

○税關に提出す可き書類に關する印紙税……………五

○タイ國積送銀貨處分に關する公報……………九

○タイ國護謄の概要……………三

○タイ市場に於ける海産物の現況……………三

○タイ國に於ける麥酒需給の現況……………六

○本年五月中盤谷港貿易概況……………三

○對日四十六種主要商品輸入統計……………七

雜 苑 欄

○米人宣教師始めて入泰の事

天 田 六 郎

○戦時下の日本印象記

訪日タイ國新聞記者團員

○非常時の日本(八月十二日、十三日タイ字紙スパープルス連載)

専修大學南洋事情研究会

○佛印及び新興タイ國を訪ねて

神 田 正 三

雜 報 欄

○タイ國の歐洲戰亂に對し中立聲明

三

○タイ國名の漢字

三

○タイ國外務省秘書局總務課長に對し叙勳

三

○タイ國華僑の動向

三

○タイ國華僑の巨頭暗殺さる

三

○亞細亞銀行の華僑銀行繼承

三

○タイ國盤谷に於て邦品の見本市開催

三

○世界周航機ニッポン號タイ國に寄航

三

○大日本航空輸送會社の「大和」號、日泰間航空路開設試験飛行

三

○國際文化振興會のタイ國憲法祭紀念博覽會に山車其他を出品

三

○タイ國文部省に本協會より兒童教育映畫一卷を寄贈

六

○タイ國看護婦四名本邦に於て修業志望

六

○東京外國語學校にタイ語本科復活設置方陳情

七

○衆議院議員のタイ國視察團

七

○盤谷駐在高瀨總領事歸朝

七

○盤谷駐在武官齋藤中佐歸朝

七

○大阪商船盤谷出張所長の更迭

八

○三木榮氏歸朝

八

○新任タイ國駐日武官來朝

八

○タイ人士の往來

八

○大阪日通貿易協會の改稱

八

協 會 記 事

○三井物産盤谷前支店長高月喜右衛門氏並に三木榮氏歸朝歡迎午餐會開催

九

○高瀨總領事、天田通譯官歡送午餐會開催

九

○本會經營目白タイ國學生會館在館學生氏名

九

○會員異動

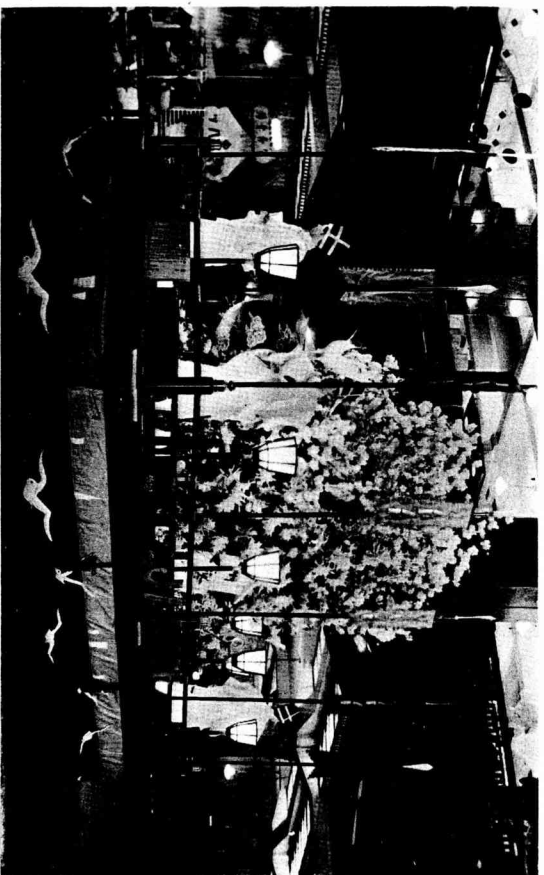
九

○會員消息

九

○寄贈圖書……………
○財団法人日本タイ協會總裁及役員職員……………

九〇
九一



車山るせ品出に會體傳祭記法憲國イタの催開て於に介継りよ日八月二十年本が會興振化文際國

新聞論調

○タイ國に於ける華僑彈壓

(八月十七日、ストリート・エコー紙所載)

今より三週間前に續々として來た華僑銀行盤谷正副支配人及び會計員逮捕のニュース、それ以前の在盤谷華僑新聞數種の發禁及びタイ國內華僑學校數校の閉鎖のニュース等々、之等タイ國の事件は英領馬來在住の華僑に尠なからざる動搖を與へ、斯かる處置はタイ政府の徹底的なる華僑排撃政策を物語るものであるとして、次第にタイ政府の親日傾向に關する種々の噂が高まつて來てゐる。昨日傳つて來た噂は中でも最も突拍子もないもので、日本軍二萬がバン・ブサーの方面に進軍中であると云ふのである。

本紙は右に關する在彼南タイ國副領事ルアング・ロハナンダナ氏の權威ある聲明を掲載し得るのを喜ぶものである。即ち今次の檢擧は在タイ國華僑に對する差別待遇に依るものではなく、明白なる法規違反に依るもので、之は單に華僑の學校、新聞のみでなく、他の外國人の學校も華僑學校同様、閉鎖を命ぜられたのであると。

タイ國政府の處分は特に華僑に對してのみではないとの右聲明は種々な疑惑を一掃するものである。一方此の聲明

と同時に盤谷から到着した情報に依れば、去る八月十日、盤谷警察は刑事裁判所に於て華僑銀行員に對し、大衆募金の嫌疑と共產黨員並びに國民黨員（兩者共タイ國に於ては認められてゐない。従つて秘密結社と見做される）の嫌疑に依つて十五日以上の拘留を言渡したとのことである。

斯かる事實は事件を頗る明快ならしめ且つタイ當局の意圖を説明する。同國の法律は確證なくして、十五日を出でざる期間ならば警察に拘留し得ることを規定してゐる。斯かる處置の倫理的正否を論議するのは本文の目的とする處ではない。是れがタイ國の法律なのであるから。扱て十五日の拘留期間が切れたのであるから、之は銀行主腦部に對する明確なる嫌疑が決定し、法の適用を受けるに至つたと推定される。件の華僑銀行支配人某は新嘉坡生れであるから英國民ではあるが、斯かる事實を以て右の事態を如何とも變ずる事は不可能である。若し可能なりとすれば、それは單にタイ當局をして斯かる處分をなす以前に綿密なる調査をなさしめるのみである。

タイ國が嚴正中立の永い傳統を堅持してゐる事實を説明すれば、恐らく讀者諸君はタイ國政府の態度を諒解されることと思ふ。吾等が盤谷の新聞記者より聞く處に依ればタイ國の新聞は常に嚴正中立を命ぜられて居り、現下の歐洲動亂に於て、英佛の政策を批判する事は勿論、ヒットラー、ムッソリーニを批判する事も許されてゐないのである。タイ國の友邦及び其の指導者に對して不利な批評をすれば直ちにその國の外交代表の抗議に遭ひ、掲載紙は痛烈な譴責を受けるか、若し抗議が非常に嚴重であれば、一時發行停止を受けることさへある。現在、日本はタイ國に關する限り友邦であるから、日本の行動に關する如何なる批判も又日貨排斥の唱導等も、嚴正中立を破壊するものなりとしタイ政府は斯かる行爲を防止せんとしてゐる。

今回檢擧を見た銀行員が非合法黨の黨員であつたならば、タイ國に於ては法の適用を受けなければならない。茲に於て馬來に於ても最近まで國民黨は禁止され、黨員は追放されたことを想起すれば我英領馬來華僑諸君はタイ國政府の今次の處置を諒解されることと思ふ。

次に支那本國への送金に關して、若しその金が赤十字社の如き慈善團體に向け送金されたのであれば、之に對して如何なる異議をも唱へることは困難である。但し國民政府に送金されたのであるから直ちに抗日戦費に支辨される恐れがあるので、タイ國政府が斯る送金は自國の嚴正中立方針に反するとなすのは諒解し得る。要之、貨幣はタイ國に於てタイ政府の保護下に得られたものであるから、同政府が自國友邦に敵對する爲この貨幣を使用すべからずと主張するのは正當であらう。假に英獨戦争が起つた場合、タイ在住の英國民が戦争援助の目的を以て英國政府に送金することは之亦不可であらう。吾等はタイ國政府を辯護するものではなく、單に斯かる事態の真相を見究めんと試みたのである。彼南副領事の聲明に依り次の一事は確實である。即ち、タイ國に於ては華僑に對する差別待遇はないのである。斯かる疑問は凡て、馬來に於て英國法律の保護の下に享有してゐる萬人の完全なる自由、特に行動の自由にある、斯かる英國の自由な標準から外國を判断しようとするにある。時々斯かる自由は放縱に流れる場合があると主張する者もあるが、自由に對して干渉を加へぬためには時には少し位の放縱を見過しても尙我等は自由を貴重なる理想としてゐるのである。

支那救済資金募集は英領馬來に於ては禁ぜられてゐないのみならず、全民衆の同情と支持を受けてゐる。シェントン・トーマス氏も他の機會に述べてゐるやうに、吾等は凡て英國法の保護の下に享有せる福祉を認識して安寧秩序を亂さないのみならず、現在英領馬來の外國人間に見られる様な融和親善を永遠に保持するため全力を擧げて努力しなければならぬ。

資料欄

○タイ入國法改正

佛曆二四八二年（一九三九年）タイ入國法（第二）が公布せられた。右により佛曆二四八〇年（一九三七年）入國法第三十六條は次の如く改正された。

第三十六條、第三十五條記載の諸證書の有効期間は次の通りとす。

- (一) 身柄證明書は發給當日より向ふ一箇年
- (二) 再入國許可書は右に同じ
- (三) 居住證明書の有効期間は無制限なるも、國外に帶出したるときは無効なりとす。居住證明書保有者が證書の失效を防止せんと欲する場合は、當局官憲によりタイ國より出國したる年月日の裏書を受くるを要し、右保有者が裏書の日附より一箇年以内に歸還するとき、又は、該期間内に於てタイ國內外を旅行するときは無効なりとす。

○税關に提出す可き書類に關する印紙税

過般實施せられたる印紙税法中、税關へ提出す可き書類に適用すべき印紙税につき七月六日附を以て釐谷税關長より左の如き告示があつた。

書類の種類	印紙税	支拂人	消印を爲す人
一、委任狀 (イ) 一件を委任する場合 (ロ) 一件以上を委任する場合	一・〇〇銖 五・〇〇銖	委任者	代理人
二、船荷證券(但し輸入貨物の船荷證券を除く) 三、小切手	〇・二五銖 〇・〇五銖	船荷證券署名者 振出人	署名者 振出人
四、貨物受取證 (イ) 貨物運賃五銖以内にして近海に運搬せらるゝ場合 (ロ) 其他の場合	〇・〇五銖 〇・二五銖	發行人	發行人
五、税金を小切手にて支拂はんとする場合に要する保證狀	一・〇〇銖	保證人	保證人

- 六、荷渡指圖書
- 七、副書及び複本
- (イ) 正書に要したる印紙税が〇・五〇銖を超えざる場合
- (ロ) 其他の場合
- 八、受領證
- (イ) 五銖以上二十銖以下
- (ロ) 二十銖以上は毎二十銖及び其の端數毎に
- 九、税關への用紙全般
- 申告書、申請書其他一般に公衆に販賣せられ居る凡ての用紙に印紙を貼布すべし
- 十、税關への申込書願書申請書
- 例
- (イ) 舷側より荷揚の許可を得んが爲の申請書
- (ロ) 荷揚許可を得る前に貨物の荷揚又は上陸許可を得んとする申請書

〇・〇五銖	發行人	發行人
正書印紙税と同額	<small>(1) 概書類關係者が一書人のみの場合は一書人の印紙税を支拂ひたる者ある場合は</small>	<small>正書に消印をなしたる者</small>
〇・五〇銖		
〇・〇五銖	發行人	發行人
〇・一〇銖	署名人	署名人又は有權稅關吏

- (ハ) 積荷目録の訂正を要請せんとする申請書
- (ニ) 規定の時間外に荷受を行はんが爲の申請書
- (ホ) 税關所轄地域外に於て検査及び通關手續を行はんとする願書
- (ヘ) 倉庫外に品物をストツクせんとする申請書
- (ト) 認可埠頭以外の地に於て荷揚せんとする申請書
- (チ) 輸入品檢閲願書
- (リ) 申告書の訂正又は取消を要請せんとする申請書
- (ヌ) 税金其他の拂戻請求書
- (ル) 兵器彈藥の通關手續時間延期申請書
- (ヲ) 酒精飲料を移動せんとする申請書
- (ワ) 書類寫要請申請書
- (カ) 諸證明書發行申請書

(ヨ) 分析申請書	
(タ) 燈臺税支拂證明書に對する申請書	
(レ) 時間外に品物を引取らんとする申請書	
(ワ) 税金の免除又は減額を要請せんが爲の申請書	
(ツ) 法律、規定、又は検査、通關手續等の改正を要請せんとする申請書	
(ネ) 課税を低率に引下げんが爲の抗議	
(ナ) 荷物移轉免狀下附願書	
(ラ) 精米所、精米所倉庫、保税倉庫、倉庫及準頭認可願書	
(ム) 小切手にて税金の支拂を行はんとする申請書	
(ウ) 罰金緩和申請書	
(キ) 入札要請書	

○タイ國積送銀貨處分に關する公報

一、タイ國貨幣の沿革

タイ國(暹羅)は金本位制度を採用した最古の國の一つであつた。然し乍らタイ國は金塊の輸入容易でなく一旦鑄造した金貨も往々にして鑄潰され裝飾用とせらるゝ爲一時銀本位制を採つたのであつた。

佛曆二四四五年(一九〇二年)銀貨の變動甚だしく國庫の損失多大であつた爲銀貨の自由鑄造を禁止し銀貨鑄造は金貨を提供したるものに限る而も法定爲替率磅に對して十七銖の比率に依つてのみ許可することゝし次いで佛曆二四五一年(一九〇八年)には更に同率を磅に對し十三銖に改ため其後約十二年間爲替の平衡を保つた。

右の十二年間の平衡を保ち得た理由は第一にタイ國が通例輸出超過國であり外貨の獲得が容易であつたこと、第二に佛曆二四五〇年(一九〇七年)金本位制を法律を以て設定し九十萬磅の特別準備金を設けて貿易逆調の年に備へたからである。以上で銀價暴落時に於ても貨幣價值を維持し得ることゝなつたが、銀價暴騰の場合に對しては何等備ふるところが無かつたのである。

之が爲佛曆二四六二年(一九一九年)以降に於て世界大戰の影響として銀價暴騰するに及び銀貨を鑄潰して輸出するものが激増した、此處に於て政府は之が防止策として順次爲替率を高め佛曆二四六二年十一月末には磅に對し十銖以下に迄率を高めて銀貨の海外逃避を防いだ。

然るに其後銀價の反動的急落と米の凶作に依る輸出禁止とは新らしき困難を招來したので、政府は再び佛曆二四六五年（一九二三年）法定爲替率を一磅對十一銖迄引下げ、其の結果が頗る良好であつたことに鑑み佛曆二四六九年（一九二七年）三月法貨一銖は純金〇・〇六六五六七瓦磅に對し十一銖と公定し次いで佛曆二四七一年（一九二八年）には、之を法律として公布した、概法の主なる條文は左の如くである。

(1)、大藏大臣は鑿谷に於て一銖に對し純金〇・六六五六七瓦の率を以て金又は金法貨を兌換す。

(2)、大藏大臣は國外の一定の場所に於て一定の率を以て法貨引換に金又は金爲替を受渡することを得、其の率は時價並びに受渡場所に從ひ、法貨一銖に對し純金〇六六五六七瓦の近似點を以てす。

本法の重なる特徴は磅貨金量十一分の一未滿の騰落より生ずる爲替危険を政府が負擔した點である。

右の責務履行の爲政府は前紙幣準備金及金本位準備金を以て新たに通貨準備金を設定し又新準備金を保證する諸條文を設けた。

佛曆二四七五年（一九三二年）五月十一日英國金輸出禁止に際しタイ國政府も亦金輸出禁止を斷行し金禁輸出と同率を以て英貨を結びつけた。佛曆二四七六年迄の通貨準備金は大部分金で殘部は金通貨であつたが、二四七六年五月金通貨（金弗、金フラン）磅貨に改め續いて磅爲替政策維持の爲政府は遂に通貨準備金を全部磅で所有することに定め、所有の金を全部同月中に處分した。

二、銀貨の處分

上述の如く銀貨が銀相場の騰落に伴ひ相場安定せず貨幣として極めて安定なる點に鑑み、政府は先年準備金の一部分たる銀銖貨を米國に積送處分し新たに金地金を得て、準備金と爲す可く銀銖貨を米國に積送した、此の銖銀貨の處

分は佛曆二四七五年修正通貨法第十七條(A)項に規定せられたる

(イ)大藏大臣は國庫保有中の銖銀貨の或部分を賣却する事を得

(ロ)右の銖銀貨賣上金を以て磅貨、金又は金爲替を購入し之を國庫に保有する事を得

との條文に基いて爲したものである。

右の處分明細に就き七月廿四日附を以て、大藏省は左の如き公報を發表した。

銖銀貨の溶解及び販賣は佛曆二四八一年（一九三九年）三月末に行はれ左の如き結果を得た。

溶解せる銖銀貨の額（銖銀貨の品位〇・九、一個の重量十五瓦）五二・四三六、〇〇〇

溶解の結果取得せる銀地金（品位〇・九九九） 二二、八一六、三八一、一一號

銀賣上高 九、八一、〇四三・九一弗（米）

總賣上高 雜收入 七、一三一・九〇弗

合 計 九、八一八、一七五・八一弗

經 費 二二六、五〇三・三六弗

純 賣 上 高 九、五八一、六七二・四五弗

右賣上金九、五八一、六七二弗四五仙は英國より七六九個の金地金（純分重量二七三、八一五・五四五オンス）の

購入資金に充當し購入せる金地金は新たに通貨準備金の一部として國庫に貯藏することとした。

金地金の購入は倫敦に於て純金オンスにつき三四弗七六仙半替を以て之を行ふた。

タイ國が自國々庫に金を保有するのは今回が最初であるが此の第一段としての銀貨販賣が米國の銀相場暴騰の際行はれたことは非常な成功であつた。即ち今回の銀貨販賣は銀純分〇・九九九のもの一オンス四三仙、換言すれば銀貨一個四二仙二八の相場で行はれて居るのであるが其後米國は四十三仙を最高値として買止め、銀相場が漸落歩調に轉じ七月十日に至つては三十五仙となつて居る。

此の事より見て假に當國の銀貨處分が數箇月遅れ現在に至つたなら、銀貨一個は三十四仙七一となるわけであらう。此の事より見て假に當國の銀貨處分が數箇月遅れ現在に至つたなら、銀貨一個は三十四仙七一となるわけであらう。

○タイ國護謨の概要

護謨は當國に於て錫、チーク材と相並び將來有望なるものであるが、近くに英領馬來半島を控へ乍ら栽培事業の着手が遅れた爲、今猶當國産護謨は世界市場の注目の對象とはなつて居ない。

此點に鑑み左に當國護謨の概要を記述して參考に資することとする。

一、産地

當國內に於ける護謨の主たる産地は半島南部地方、即ちヘッド・ヤイよりスンゲイゴロに至る鐵道支線の沿線地方並びに西南海岸地方である。東部に於るチャントプリー地方にも少量の産出はあるが、之は運輸不便なる關係から、對外貿易上餘り重要な地位を占めず産額又特筆するに足らぬ。又コーラット近邊及びチャン島に産する野生護謨も

其の用途限定せられ、一般的需要少き關係上餘り今日のところ重大視さるゝに至らぬ。従つて貿易上大なる價值を有するものは唯前記二地方産のものと稱しても大過はない。

二、集荷輸出の経路

當國に於ける斯業の發達は極く最近に屬する。従つて現今に於ては大規模の農園少く、多くは小規模の個人園である。此の間に介在する仲買人(華僑)は之等農園より一ピクルニピクル宛買集め、煙煙前のものは自ら一、二噸の程度で煙煙するか、大規模の煙煙施設を有する地方に送り煙煙するか、又は全然煙煙せず集散地へ送るものもある。護謨の集散地はヘッド・ヤイ、ヤラー、サラトラン、タンジョンマス、ナコンシータマラット等の南部地方及び西海岸雲方のトラン、東部のチャントプリー等である。

左に鐵道による送貨統計を掲げて集荷の状況を略示するに

▲佛曆二四七九年(一九三六年四月より一九三七年三月迄)各驛護謨發送量

ヘッド・ヤイ	五、〇五七噸
ルソー	二、七七七噸
スンゲイ・パデー	二、五六五噸
ヤラー	二、四一〇噸
サラトラン	一、六八一噸
タンジョンマス	一、六三四噸
スンゲイゴロ	一、五七四噸

コックボデー	一、〇四五噸
トムソン	一、〇二四噸
カプー	六六五噸
トラン	六六二噸
ナブラード	六四八噸
チャノン	六四四噸
マイケン	四九三噸
メルボウ	四〇八噸
ナコンシートマラート	三六九噸
其他	一、八八九噸
合計	二五、五四五噸

である。右の内ルソーの送貨量の多いのはルソーに大規模の燻煙施設を有するからであり、スンガイ・パデーの送貨量の多いのは其の近邊に大規模の農園があり數量が纏まり直接仲買人を経ずに輸移出されることより來るものである。

右の諸地に集まりたる護謨は大略左のコースに依り國外に輸出せられる。

- (イ) ハード・ヤイ
- 1 鐵道——英領彼南

- 2 貨物自動車——英領彼南
- 3 貨物自動車——シンゴラ——汽船——盤谷
- 4 貨物自動車——シンゴラ——汽船——英領新嘉坡
- 5 鐵道——盤谷

- (ロ) ルソー
- 鐵道——ハード・ヤイ又は英領彼南

- (ハ) ヤラー
- 1 貨物自動車——パタニー——汽船——盤谷
- 2 貨物自動車——パタニー——汽船——英領新嘉坡
- 3 鐵道——ハード・ヤイ又は英領彼南

- (ニ) サラトラン
- 1 貨物自動車——英領彼南
- 2 鐵道——英領彼南
- (ホ) タンジョンマス
- 1 貨物自動車——パンナラ——汽船——盤谷
- 2 貨物自動車——パンナラ——汽船——英領新嘉坡
- 3 鐵道——英領彼南

- (へ) スンゲイゴロ
鐵道—英領馬來
- (ト) トムソン
鐵道—英領彼南
- (チ) コークボデー
1 貨物自動車—パタニー—汽船—盤谷
2 貨物自動車—パタニー—汽船—英領新嘉坡
- (リ) ナコンシータマラート
3 鐵道—英領彼南
- 1 汽船—盤谷
2 汽船—英領新嘉坡
- (ヌ) チャンタブリー
汽船—盤谷

三、輸出數量及金額
先づ最近五箇年間の輸出を比較するに、左の如く大體に於て遞増を示して居り、殊に二四七九年（一九三六年）四月より一九三七年三月迄に於て著増を示して居る。

	二四七六年	二四七七年	二四七八年	二四七九年	二四八〇年
護謄シート	10,852,367 疋	3,020,485 疋	6,625,052 疋	3,099,767 疋	6,370,877 疋
層護謄	2,257,532 銖	8,737,076 銖	3,027,718 銖	3,027,010 銖	3,027,812 銖
護謄液汁	62,112 銖	2,523,269 銖	4,558,847 銖	6,333,353 銖	5,448,569 銖
	62,112 銖	2,523,269 銖	1,123,325 銖	2,420,253 銖	2,344,848 銖
				6,404 立	2,344,848 立
				3,553 銖	8,966 銖

次に之を仕向地別に分類すれば左の如くである。(佛曆二四八〇年統計)

- (イ) 護謄シート
 - 彼南 二一、三二一、二二六 疋
 - 新嘉坡 四、九四四、九九三 疋
 - 獨逸 八二〇、四七四 疋
 - 米國 七三一、〇四四 疋
 - 日本 四二一、一九六 疋
 - チェッコ・スロヴァキア 九五、〇〇〇 疋
 - 香港 三、四八〇 疋
- (ロ) 層護謄
 - 一五、六一一、九九九 銖
 - 三、二六九、八三三 銖
 - 六五七、五二一 銖
 - 五四八、九一八 銖
 - 三四六、九八六 銖
 - 八三、七五〇 銖
 - 四、一七六 銖

新嘉坡 三、〇七三、七七〇疋 五四八、九一八銖
 彼南 一、三三四、七九四疋 一、〇二四、九三八銖

(ハ) 護謨液汁

チエッコ・スロヴァキア

獨逸

一一二、二二六立 四、五二〇銖
 一一一、一〇立 四、四七六銖

右の如くタイ國生産護謨の八割以上が彼南及び新嘉坡へ輸入せられてゐる。

四、取引事情

前述の集散地に於ける在荷は主として彼南よりの入電相場に基き適宜處分せられる。相場はビクル建が最も普通で稀に百疋を以て建値するものもあり、包装は普通約百疋を一括りとした(針金十字掛)裸荷である。彼南及び新嘉坡に於ける護謨取扱英商、華商等は何れも其の代理店をヘッド・ヤイに派出して居り、ヘッド・ヤイ駐在代理店は直接又は間接に夫々其の關係先たる仲買人に一定の前渡金を貸付け、少量宛の護謨を集荷蓄積せしめ一定期間後之をヘッド・ヤイに引取り又は直接彼南又は新嘉坡に積出さしめて居る。六箇月或は一年を精算期とする廣義の物々交換的取引も行はれて居る。

五、品質

(イ) 野生護謨(ガタ・ベルチャ)

コーラット方面の山林より産出する彈性野生護謨と、チャントプリー地方及びチャン島より産出する彈性なきものと二種ある。直徑一呎位の鏡餅の様に固めたものが多い。

(ロ) 煙煙及未煙煙護謨シート

英領より輸出する普通のシートと同じものであるが、揀別、格付は英領馬來に於ける如く嚴格なものではなく各集散地獨特の揀別、格付を以て取引されて居るから、其の多くは新嘉坡又は彼南に於て再揀別せられ始めて世界的標準規格品となるのである。従つてタイ國産のものは大體に於て標準規格上の Good FAQ, FAQ, Low FAQ の三種が雜然と混合したものと看做すことが出来る。

(ハ) 屑護謨

護謨樹の切口又は液運搬容器中に於て自然凝固したものと、土中に於て凝固したる土塊護謨等數種類ある。

六、輸出税

護謨の輸出税は各種を通じ従價七歩である。

七、取引上の難點

英領馬來、新嘉坡、彼南等に於ては護謨が重要物産なる關係上、護謨取引には嚴然たる規定を設け、國際商工會議所が嚴重に之を監視し、苟くも商業上不道德なる行爲を許さず、萬一規則を犯したる者あれば該取引所の供託金千弗を沒收し護謨協會より除名し護謨取引を中止せしめる。従つて英領馬來、新嘉坡、彼南に於ては商取引整然として契約通りに行はれ、假に見本と積出品が相違した場合に於ても賣主は直ちに其の責任を負ひ賠償に應ずる。然るにタイ國に於ては斯かる規定なき爲、契約不履行は頻々として起り見本と現品とが相違しても販賣人は其の責任を負擔せぬ。之が爲、護謨取扱商は自ら契約事項に對し全責任を負はねばならぬのであるが、既述の如くタイ國の護謨は揀別、格付、種々雜多であるから、各取扱商は責任上、一旦之を手許に引取り、再揀別、再格付の上包装を改めて標準規格品

とせねばならぬ。然し乍ら護謄の如く金額嵩み相場の騰落激しきものに對し、斯くすることは餘程潤澤なる遊資を有するものに非ざれば事實上不可能の問題であり、又極めて損失危険率が多い。斯くてタイ國護謄の殆ど全部は撰別、格付に豊富なる經驗を有し、遊資又充分なる彼南又は新嘉坡取扱商に買収されるのが常である。

八、限産協定

一九三四年に締結せられたる護謄限産協定に於けるタイ國割當は左の如く

- 一九三四年 三萬屯
- 一九三五年 四萬屯
- 一九三六年 四萬屯
- 一九三七年 四萬屯
- 一九三八年 四萬屯

となつて居り、本協定は一九三八年十二月卅一日満期の筈であつたが、更に一九四三年迄引續き協定参加を延長することゝなつた。然し乍ら漸く重要産業となりつゝある護謄産業を、更に發展せしむる爲には從來の割當量にては不充分であるとの見解に依り、昨タイ曆年度末議會に於て之を審議の結果、一九三九年以降に於ては左の如く割當増加方を協會に要請する旨決議した。

- 一九三九年 五萬四千五百屯
- 一九四〇年 五萬五千三百屯
- 一九四一年 五萬五千七百屯

- 一九四二年 五萬六千屯
- 一九四三年 六萬屯

扱て限産協定割當は左の如く更改を要請することゝなつたが、實際生産額は如何と云ふに概略

- 一九三五年 三萬屯
- 一九三六年 三萬四千屯
- 一九三七年 三萬四千屯
- 一九三八年 三萬六千屯

見當であり、格別限産協定の影響を蒙つて居なかつたのであつて、今後果してタイ國側に増産の具體的成算ありやは疑ひなきを得ない。然し乍ら兎も角將來の増産に備へ割當量を増加することは必然なことゝ信ぜられる。

九、タイ國護謄の將來

既にタイ國人民議會が前記の如く割當増加を企圖してゐる以上、將來タイ國に於ける護謄栽培は益々奨励せられ發展を遂げることゝ察せられるが、一方護謄の輸出に對しては更に一步を進めて護謄取引上に英領馬來、新嘉坡、彼南等に於ける如き厳格な規定を設け、適當なる機關により之を監督せしめなければならぬと思ふ。然らざればタイ國護謄は將來共に新嘉坡、彼南の市況にのみ左右せらるゝこととなり、依然として直接世界市場に供給し得るに至らず、又商品規格も世界水準に達し得ぬであらう。而して之はタイ國産の護謄が品質劣悪なる爲ではなく、相當優良なるものを産し乍ら撰別、格付充分ならずして數等級のものが雜然として混合し居ることゝ、萬一見本と現品と相違した場合クレームの責任を賣手に轉嫁し得ぬことゝにより買主の不安を招き直接世界市場への進出を阻まれて居るのである

からタイ國が夙に此の間の事情を了解し、適當なる施設、機關を以て改善策を講ずる必要を認める次第である。

十、對日輸出

護謄の對日輸出は主として三井物産株式會社により行はれた。會社は倉庫の一部を撰別、格付の爲使用し、包装をも新嘉坡、彼南並に改めて輸出を行つた。

一九三七年及一九三八年兩年度に於けるタイ國對日輸出は次の如くであつた。

一九三七年	四九四、二二七疋	四〇四、〇七六銖
一九三八年	三二、七四三疋	二〇、五一〇銖

一九三八年に於ける減退は本邦輸入統制、爲替管理の結果として已むを得ぬものである。

○タイ市場に於ける海産物の現況

支那事變以來本邦對タイ國輸出は綿布以外殆ど全部減退を示し、其の將來に關しても亦數多の悲觀材料を見出すのであるが、其の内でも蠟燭詰を筆頭とする海産物の輸出は目立つて衰退し、前途又樂觀を許さぬものがある。

深海漁業見る可きもなく、蠟燭詰工業も少數にして幼稚なタイ國に於ては蠟燭詰及び非蠟燭詰海産物は共に其の國內需要の大部分を輸入に仰いで居る。従つてタイ國々民が特に深刻なる不景氣に襲はれざる以上、輸入海産物の需要はさして減少せぬ筈であり、過去に於て海産物最大供給國であつた日本の海産物取引は多少の増減は問題外として依然順調を持続すべき筈である。然るに最近タイ國に於ける本邦海産物の市況は頗る不振であり、日本品は殆ど市場より

驅逐されんとして居る。惟ふに右は本邦に於ける第三國向輸出貨物の不足とタイ國に於ける華僑排日貨並びに關稅引上後の物價高に伴ふ購買力の減退に原因するものである。

一、排日貨

事變以後開始せられた排日貨に就ては既に多くの人々により屢々繰返し述べられた所であるが、其の本邦對タイ國貿易に與へた影響は頗る甚大である。殊に海産物の如く直輸入、卸小賣に至る全過程を一括して華僑に掌握せられて居る商品に取つて其の影響は致命的であつた。勿論此の機會に於て華僑の勢力を驅逐しタイ商を擁護して商權をタイ人の手中に奪還せんとする運動はタイ官民一致の上續けられた。然し乍ら祖父數代に亘つて築き上げた華僑の富裕なる財力、全國隈なく巡らされ、大家族觀念に基き互に搖ぎなき連絡を有する華僑販賣網、豊富なる實業的經驗等は一朝一夕に華僑を驅逐してタイ商の據頭するを許さず、タイ商、印度商を介して成立する海産物取引額は到底華僑を介しての夫に比ぶべくもない。斯くして華僑排日貨の影響は頗る多大であり、其の對策は效を奏さぬ。

華僑が事變當初、身に危険を感じつゝも邦品取扱を欲した所以は一は邦品の値段低廉であり、一は輸送期間が短かく相場の激變に備へ得たからである。此の二つの魅力を有するが故に、華僑の排日貨決議の當初に於ても猶タイ商又は印度商を中間に介在せしめ、日本品なることを示す文字、圖案等を取除けば容易に華僑販賣網を利用し得たのである。然るに最近に至り日本品は他國品に比し決して廉くなくなつた。従つて値段の殆ど違はぬ本邦品に對し、一身の危険を冒し賣國奴と呼ばれて迄取引を欲する華僑は全く影を絶つに至つた。更に一つの事實は中華總商會の排日貨決議により最初濫々と外國品を取扱つて居た華僑が、最近は寧ろ喜んで外國品を取扱ふに至つたことである。即ち華僑の謂ふ所に依れば日本商人は其の通弊として徒らに競争値を出して賣崩しを行ふ爲、日本品取扱商は兎角甘味少く且

つ往々にして損失を蒙る。之に反して外國品を扱へば斯かる賣崩しなき爲、値段高く少々捌足遅く共常に一定の利益を享受し得る。故に今日の如く華僑が全部日本海産物取引を中止した時に於ては却つて外國品が扱ひ易く、本邦品取扱中止により何等の痛痒をも感じないと云ふのである。果して之が事實であるとすれば今後排日貨は一層一糸亂れぬ統制の下に行はれるであらうし、何等之に伴ふ不利なき以上益々長期に亘つて行はれる筈であるから、排日貨總想の如きは海産物に關する限り一種の夢物語と化し去るであらう。吾人は此の華僑の新思想を窺ひ、本邦海産物の將來に關し尠からぬ不安を感じる次第である。

左に統計を以て西曆一九三七年、一九三八年、兩年度タイ國對日海産物輸入狀況を示し、一九三八年に於て如何に海産物輸入が激減せるかを例證する。

▲對日海産物輸入統計

種目	西曆一九三七年	西曆一九三八年	減	少
鱈罐詰	一、四一八、一六〇冠	三三三、一八六冠	二六三、一二〇冠	六四、一五六冠
鮭罐詰	五六七冠	一一九冠	六六冠	二二冠
其他魚類	二二、一二七冠	九、四二八冠	一一、六三六冠	四、二一三冠
乾燥魚類	一七八、九〇三冠	一三一、一九〇冠	二一、三五六冠	二一、九一八冠
			一五七、五四七冠	一〇九、二七二冠

二、値段の騰貴と第三國向輸出品の不足

右述せる所に依り吾人は排日貨結束を一層強化せしむるに至つたものは本邦品値段の騰貴であることを述べた。依

つて次に此の値段騰貴を招來した原因につき検討を續けて見よう。本邦海産物の値段騰貴は云ふ迄もなく北支向輸出旺盛の結果として貨物不足を來したと、本邦輸出統制に原因する滿洲北支を指す輸出貨物の活潑なる動きは、當然第三國向輸出貨物の品薄を來し、其の結果として値段を騰貴せしめた。試みに昨年六月頃の相場と現在相場（卸賣値）とを比較すれば左の如くであり、以て海産物取扱商が最近如何に其の價格騰貴に惱ませられつゝあるかを察知するに足る。

種目	昨年六月現在	今年六月現在
トマト・サーデン大罐	六銖八十士丹	九銖五十士丹(新入荷九銖七十五士丹)
トマト・サーデン小罐	八銖二十士丹	十銖五十士丹(新入荷十一銖)
寒天(關西一等品)	二百銖	二百八十銖
鰯(松前)	四十五銖(昨年十月頃)	六十五銖
椎茸	百五十銖	百八十五銖

次に本邦海産物卸賣時價を外國競争品に比すれば左の如くである。

種目	本邦品	外國品(原産國名)
トマト・サーデン大罐	九銖五十士丹	十二銖二十五士丹(大罐四打品、品質良シ)(米國)
トマト・サーデン小罐	十銖五十士丹	ナシ
鰯	六十五銖	タイ國産ブラトー魚大罐(四打入)七銖四十五士丹
		四十五銖(米國)

此處に於て本邦海産物は從來の武器としての價格の低廉性を失つたのみならず、輸出統制と北支向輸出の旺盛と共に依り、時に依つては値段引合へども品無しといふ障害事情をも生じ、之が爲商機を逸する結果となり益々對日輸入の不振を招いた。

三、タイ國々民購買力の限度と代用品擡頭の機運

斯くの如く本邦海産物輸入原價の高まりたるに加へ、タイ國內に於ては本年二月關稅を引上げた爲、タイ國に於る一般海産物市價は一齊に奔騰した。此の事は富裕なる國民の間に於ては餘り問題にならぬのであるが、タイの如く國民の生活程度低く國民購買力に限度ある國に於ては尠からず需要を減少せしめる。即ち彼等は輸入罐詰を買はずに鰯を買ひ、國內産の魚を買ふといふ譯になるのである。又政府としては此の間の事情を利用して領海魚の罐詰工業を大規模に計畫してゐるし、民間に於ても鰯の如きは既に不味乍ら相當體裁良きものを作つてゐる。斯くて高關稅並びに輸入原價騰貴の結果たる國內物價の騰貴は海産物が國民必需品なる關係上、案外早く國內代用品産業の擡頭を見るかも知れぬ。事實輸入海産物は既に農民及び一般下層國民の購買力限度を超えたのである。

四、本邦海産物の將來

斯くて本邦製海産物は圓ブロック内輸出を適當に制限するか又は國內に於ける統制を緩和するかに依り手心を加へなければ、今やタイ國市場に於て全滅の危機に瀕して居るのである。既述の如く外國品取扱の妙味を知り、本邦品取扱中止に何等脅威を感じなくなつた華僑の排日貨には當分施すべき對策がないのみならず、六月廿一日皇軍の汕頭上陸は一層之を刺戟し、日貨抵制監視團の暗躍は益々排日貨の結束を強固ならしめたのである。而して斯くの如く不振状態を放置して置くならばタイ國內需要は次第に國內産物又は他國品に傾いて行くであらう。

既にして本邦海産物は西曆一九三九年に入り左表の如く巨額の減退を示して居る。殊に本年二月施行の高關稅は之に拍車を掛け一層本年の沈滞を招くであらう。

▲西曆一九三九年自一月至四月海産物（日本）輸入統計表

種目	月別	一 月	二 月	三 月	四 月
罐詰		一一、〇三一餘	四八六餘	三、七八八餘	—
魚類		一、一一八ヶ	八二五ヶ	一三五ヶ	二四〇餘
乾燥					

茲に於て圓ブロック向輸出の制限、其の他何等かの對策に依り本邦品が再び昔日の威力を發揮し得ることが可望されてゐる。然らざれば過去に於て折角開拓せられたる本邦海産物の地盤は悉く失はれるであらう。

五、本邦業者に對する要望

本邦業者に對しては輸出技術上の不斷の研究が要望される。例へばトマト・サーデンの如きは高率の關稅に妨げられるのであるから（從量、珪廿士丹）中身の魚數を尠くし少しでも他國品より安く賣る。又華僑販賣網を利用し易くする爲、鰯の如きは兩端に二本長い足をつける日本式の體裁を廢し、支那風に片端に長い足を揃へ海苔（吸物用）の如きは支那風に丸形に作る等である。此の外寒天の括り方、紐の結び方、罐詰の表面の圖案等、微細な點に至る迄工夫を凝すことが必要である。要するに出来合のものをタイ國市場に向けるのでなく、タイ市場向のものとして特に製造し、タイ國向輸出に努力する様一般業者に要望する次第である。

○タイ國に於ける麥酒需給の現況

一、タイ國麥酒消費量

過去に於てタイ國內到る所の酒場、料理店、小賣店の店頭に陳列されて居た本邦麥酒が最近に至り之等の店頭より悉く影を消すに至つた。

此の憂慮すべき事態に鑑み、タイ國內に於ける麥酒需給の現況につき検討することにする。

タイ國內に於ける麥酒の需要はタイ國麥酒會社の創立（一九三四年）以來國産品愛用宣傳に依り國內需要頓に喚起せられた結果、年々増加の傾向を生じ、尠くとも従來、蔑ろにされて居た地方の需要は此の宣傳に依り多分に増加した筈である。

然るに事實は之に反し佛曆二四七九年（一九三六年四月より一九三七年三月）以來タイ國麥酒消費量は左の如く年々減少の一途を辿つた。

- 佛曆二四七九年 三、一二六、九九〇立
- 佛曆二四八〇年 二、四五六、二六四立
- 佛曆二四八一年 二、四〇〇、二三三立

依つて次に斯くの如く愛飲者が増加しなから消費量の減少した理由を述べれば主として次の點に基くものと思惟せられる。

二、佛曆二四八〇年に於ける減退の理由

佛曆二四八〇年に於ける麥酒の消費の減退は左記統計に依り明かである。

仕出 國	佛曆二四七九年		佛曆二四八〇年	
	數 量	金 額	數 量	金 額
白 耳 義	九八、一四三立	二七、三二〇銖	七六八立	三〇〇銖
支 那	八二	七九	七二、七〇二	二〇、七三六
錫 蘭	四五、一七五	一五、六六〇	五〇、七〇二	一八、八九九
丁 抹 西	一一二	一六四	三五四	二七四
佛 蘭 德	二〇、八七三	九、一六一	二四、二三六	一〇、四一〇
獨 逸	四、九七四	一、四〇〇	一二五、六九八	三五、九七〇
香 港	—	—	四、六八〇	一、二一〇
印 度 支 那	—	—	三二	一一
伊 太 利	—	—	—	—
日 本	一、二四七、七二〇	二五一、二二九	三六七、〇一五	七四、四〇〇
和 蘭	五、〇二三	一、一五四	七、八四三	二、五二九
諾 威	一、〇〇八	四五二	—	—
彼 南	五〇、二三九	二六、七四七	五三、四七五	三三、〇七二

	二四七九年	二四八〇年
新嘉坡	一五四、七六〇	七五、七一〇
英國	二二、八九九	一七、三七〇
米國	八四五	四〇七
合計	一、六九一、八五三立	四二六、八五五銖
		一、〇八三、八六〇立
		三五〇、一五一銖

タイ國麥酒生産

二四七九年 一、四三五、一三七立
二四八〇年 一、三七二、四〇四立

右の如く、二四八〇年に於てタイ國麥酒輸入量が前年に比し六〇七、九九三リットル減少して居るに對し、日本麥酒の輸入量は實に八八〇、七〇五リットルを減少して居るのであり、此の事實よりして佛曆二四八〇年に於けるタイ國麥酒消費量の減退は支那事變勃發後の排日貨により價格低廉にして飲み慣れた日本麥酒の供給が止められたことが一般の日本麥酒愛飲家の消費を減少せしめたものと考へらる。之は麥酒取扱大手筋が悉く華僑に依つて占められて居るタイ國內に於て排日貨の結果當然來るべき現象で聊かも怪しむに足らず、之が爲め日本麥酒消費が減退し、總消費量も亦之に隨つて減退を來したものと見られるのである。尤も新嘉坡麥酒が日本麥酒に代はり多少市場に進出したが佛曆二四八〇年に於ては左して目覺しい迄の進出を遂げず、麥酒取扱業者の大半は日本麥酒取扱を禁止されつゝも猶俄かに他國品に手を出すに至らなかつた。其の理由は他國産麥酒が當時猶日本麥酒程に一般に普及して居らなかつた點にある。

三、佛曆二四八一年に於ける減退の理由

次に、二四八一年に於ての供給状況を見るに、佛曆二四八一年に於ては前年に比し貿易事情は本邦品に對して更に悪化した。遺憾ながら二四八一年の詳細なる統計は未だ入手し得ないのであるが大勢は左の如くである。

佛曆二四八一年麥酒總輸入量

(内日本麥酒輸入量)

佛曆二四八一年タイ國産麥酒釀造量

一、〇五七、一三三立
一五四、六一一立
一、三四三、〇〇〇立

即ち總輸入量が前年度に比し僅かに、二六、六二八リットルを減少したのみなるに拘らず、本邦麥酒は前年に比し二二二、四〇四リットルを減少した。

此の事は明かに第三國麥酒が本邦品に代はり進出したことを物語るのである。
又タイ國産麥酒も生産量こそ減少したものの、全國總消費量に對する供給割合は左の如く
二四七九年 四五・八％
二四八〇年 五五・八％
二四八一年 五五・九％

次第に供給割合を増加して居る。

以上述べ來りたる所に據り最近に於ける本邦麥酒輸入の不振は排日貨を第一の原因とし、之を奇貨とする第三國及びタイ國麥酒の市場進出に因り受けた打撃を第二の原因とするものと觀察せねばならぬ。

四、日本麥酒の將來と對策

右述せる如く當タイ國麥酒及び第三國麥酒は漸く本邦麥酒の地盤を蠶食するに至つたのであるが國民需要増加せる

割合に消費量が減退したことより見て假に排日貨終熄し華僑が再び日本麥酒取扱を開始する時が來るとすれば本邦麥酒は容易に昔日の如き躍進を遂げ得ること、信ぜられる。

然しながら今茲に何等對策なくして放置するならば第三國及びタイ國麥酒は次第に其の勢を増し結果として國民の嗜好は遂には第三國麥酒又はタイ國麥酒に傾くに至るであらうことも想像し得る。

仍て當面の策としても將來に對處する策としても今より本邦麥酒の地盤擴張策を講じなければならぬ事は云ふ迄もなく、又失はれたる既得地盤は極力之が奪回に努力せねばならぬ。

事變當初に於ては華僑を利用する爲、新商標を用ひ日本麥酒なる事を示さずして販賣を試みた。然しながらタイ國に於ては所謂商標第一の觀念極めて強く新商標の品を市場に完全に紹介する迄には非常なる長期間を要するのであつて、斯の如き方法では却々供給量増加は圖り得ないのである。

夫よりも寧ろ舊來の著名商標麥酒の販賣に努力す可きであり、排日貨繼續時期中は極力之等を地方に宣傳して地方都邑への進出に努力せねばならぬと思ふ。

盤谷市中に於ては現にアサヒ、サッポロ、キリン等の本邦著名ビールが各々其の宣傳機關として二、三のビヤホールを有し其の他各種の宣傳を行つて居る。

尤も之も往時に比すれば頗る消極的であり宣傳擴張の氣分薄らぎつゝあることを憂ふるのであるが、現況よりして差當り今後は出來得る限り地方的進出を心掛けねばならぬと思ふ。即ち之等地方タイ國人俱樂部(各郡邑に存在する)地方官公所、鐵道各驛、列車食堂、レストラン、旅館等に極力宣傳賣込を行ひ、先づ此方面より次第に地盤を築いて行つたならば現在の本邦麥酒消費減退防止の上に又新地盤獲得の上に、尠からず益する所ありと信ぜらる。

○本年五月中盤谷港貿易概況

——附四月中地方港貿易統計——

具體的方法としては之等方面に絶へず廣告、ポスター等を配布することも一策であり、又試飲者等が購入し易い様に○・二五リットル乃至○・三リットル入の小瓶を作ることも一策であらう。
兎に角本邦製造業者、輸出業者はタイ國內の邦商と連絡し適當なる進出策を講ずることが衷心より希望される。

タイ國關稅局發表の統計に依ると本年五月中に於ける盤谷港輸出入貿易は左の如くで約二百五十萬銖の出超を示し著しき進展を遂げた。

	一九三九年五月	一九三九年四月	比 較
總 額	二三、八三六、九五六銖	一九、二二四、六四〇銖	四、六一二、三二六銖
輸 入	一三、一四七、七九一銖	一〇、一五四、〇七〇銖	二、九九三、七二一銖
輸 出	一〇、六八九、一六五銖	九、〇六〇、五七〇銖	一、六二八、五九五銖
差 引 出 超	二、四五八、六二六銖	一、〇九三、五〇〇銖	一、三六五、一二六銖

之を前年同期に比較すると輸出に於て二百九十四萬四千三百九銖輸入に於て二百七十一萬一千七百十五銖と共に激増を示してゐる。輸出の増加は當國經濟の「バロメーター」たる米の躍進にあり、主として香港、新嘉坡向けの増進に負ふ處が多い。

輸入に於ける増加は前月に比較して特に目立つものは石油、ガニ、パック、食料品、機械等があり遺憾ながら本邦品は總體的に減退を示してゐる。之が原因は排日貨の影響にも據るが、又本邦に於ける統制經濟策と圓ブロックへの輸出増加に依るコスト高に依つて今迄外貨（歐米品）に比較して廉價であつたものが同等若しくは高値になりつゝある事も否めない事實であり、之が影響する處も極めて大である。

地方港に於ける本年四月中に於ける貿易は四百七十九萬八千四百九十二銖、輸入百三十一萬二千二百七銖であり、之亦三百四十八萬六千二百八十五銖の一次出超を現出した。

勿論地方に於ては錫及護謨等が主要輸出品であり錫は二百七十二萬八千二百七十九銖、護謨は百五十六萬九千四百十八銖を夫々輸出した。

五月中盤谷港、四月中地方港の貿易統計表は次の通りである。

盤谷港

種目	(一) 輸入 (單位: 銖)		佛曆四十年四月		佛曆四十年五月	
	本年五月	昨年五月	本年五月	昨年五月	本年五月	昨年五月
一般商	XG 九五,八八五	G 七,五七九	G 八,四七〇	G 一五,五九三	G 一三,七三三	G 一五,五九三
酒、麥酒、酒精類	一四六,四四一	G 二二,二〇〇	一八,四九七	二〇,一七五	一七,六〇〇	一七,六〇〇
金	三三,〇〇〇	一八,七〇〇	一八,七〇〇	一八,七〇〇	一八,七〇〇	一八,七〇〇
金銀塊貨幣	二四,三三三	一三,一〇一	一三,一〇一	一三,一〇一	一三,一〇一	一三,一〇一
阿片	四〇	一	一	一	一	一

(二) 輸出		本年五月	昨年五月	佛曆四十年四月	佛曆四十年五月
計		101,621,511	75,777,080	193,550,064	181,770,684
米		101,621,511	75,777,080	193,550,064	181,770,684
同數量	(擔)	2,319,562	1,717,444	4,355,742	4,125,333
チ		六,四四六	四,七二七	一三,八二五	一〇,六七一
其他の木材		四,五五七	三,二二一	七,一七九	五,四四一
錫		一	一	一	一
同數量	(擔)	一	一	一	一
護謨		10,666	一〇,一〇〇	16,574	16,111
同數量	(担)	(元) 九,六六〇	(元) 九,一〇〇	(元) 14,000	(元) 13,677
金(地金加工品)		九,三三三	(元) 八,〇〇〇	(元) 8,000	(元) 8,000
再輸出品		三,四三三	一四,〇〇〇	三,一七一	四,六七一
其他		一,三三三	七,七二七	二,七二七	一,三三三
計		111,444	101,111	111,111	111,111

註G政府輸入X一般商品、其の内譯は追而發表す、註H第一欄は概算に過ぎない。

品目	一九三九年四月	一九三八年四月
食料品	七八四,〇八八	一,二八二,九三二
ケロシン油	一九六,四七四	七六,一六六
		三五

ガニ、バツク	一、一四三、五四六	三三八、〇一七
機械類	三四一、五〇一	三九二、五六三
金屬製品	九四六、四三三	六九〇、九三二
織物類	一、三四六、三〇八	一、六六五、二六一
煙草類	一五六、三〇二	二五〇、二八一
其他	三、七六五、四三二	三、三三九、三六七
計	八、六八〇、〇八四	八、〇三五、五〇九
註：第一欄は概算に過ぎない。		
地方港（四月中）輸入（單位：千圓）		
種目	一九三九年四月	一九三八年四月
一般商品	一、九三九、四三二	一、二九三、五六二
酒、麥酒、酒精類	二、二八五、三七二	一九、八九二
金箔	二六、八三五	—
金塊	—	—
地金及貨幣	—	—
阿片	—	—
計	一、三三二、二〇七	一、三三三、四五四
米	—	—
地方港輸出	一、一九、五一九	二九三、九〇四

同數量（擔）	(三二、九五八)	(七五、五八九)
チ	—	—
其他木材	四一、四六三	三二、七五六
錫	二、七二八、二七九	二、六一、三九七
同數量（擔）	(二八、四九〇)	(二七、九二九)
護謨及護謨屑	一、五六九、〇四八	六四九、五八四
同數量（担）	(二、六四七、〇〇八)	(一、五二二、一九〇)
金地金加工品	—	—
再輸出品	九一、四一七	八三、九九三
其他	二四八、七六六	二九六、六七九
計	四、七九八、四九二	三、五一八、三一三
註：第一欄の數字は訂正するやも知れず		
米と「チ」は概算である。		

○對日四十六種主要商品輸入統計

盤谷關稅局報告、對日四十六種主要商品輸入統計に據れば五月中の輸入額（四十六種商品のみ）一、二九〇、八二四圓にして前年同月に比し二六四、六六八圓前月に比し三六五、四九九圓を、増加し稍々好調を示した。

尙五月中對日輸入總額は一、六五三、五九三銖にして之亦前年同月の一、三八二、八四〇銖に比し著しき増加を示した。

對日四十六種主要商品輸入統計

品名	一九三九年		一九三八年		比較増減額
	五月數量	五月金額	五月數量	五月金額	
錫	二、六〇七	八七九銖	四、五〇九	一一、四二九銖	(-) 一〇、五五〇銖
非罐詰魚	八七八	四〇九	二、〇四四	二、五九六	(-) 二、一八七
加糖煉乳	三、八九五	九、一九四			(+) 九、一九四
精糖					
一般食料品	三、四五三	三、八七四	三、一五二	一、二六二	(+) 二、六一二
セルロイド製品	二、五一九	六、一八四	二、六三九	六、一六〇	(+) 二、四
化學藥品	二、八二五	四、四二九	一、八三一	一、九〇二	(-) 二、四六七
陶磁器	二、二九〇	二、三九六	二、三、八三四	三、七三二	(+) 一、三〇〇
電氣機器	二〇、八五二	一、八二六	六、九八〇	五、四三五	(+) 一、二八二
硝子容器	一九〇、七八一	三、九一四	一九、八六七	二、八二〇	(+) 四、七〇七
帽子	八五一	二、九八五	一、一五一	一、四六二	(+) 一、五二三
莫大車	四八〇	一、七三三	一、八九三	三、八八四	(-) 二、一七一
汽機					
鐵鋼材					

品名	一九三九年		一九三八年		比較増減額
	五月數量	五月金額	五月數量	五月金額	
亞鉛引鐵板	四〇五	五、四六六	五、八一〇	一、一三一	(+) 五、五、六八九
針金及針金製品			五、六四六	二、八二二	(-) 二、八二二
鐵道材料					
鐵器	一一六、五二五	四、七六七	一一〇、五二二	三、二一七	(+) 一、五、四九九
紙	一九一、七四二	三、六五六	三、九〇二	九、四九二	(-) 五、九八三
バライ	四一、五組	二、二三三	六、三五五	四、四四五	(-) 四、二二二
擦染サロン	七、九九三	七、七〇七	二、八八五	一、六三三	(+) 五、五七二
パカマ	三、四一〇	一、五八三	四、七三三	二、〇三二	(-) 三、七〇二
更紗	一、二九三	二〇、二六七	三、六七三	四、一七四	(-) 二、八八二
晒金	一、三九七	一、九四六	九、三九八	二、九七二	(+) 一、四一三
生金	三、四九六	二、三三〇	一、三三〇	一、四一五	(+) 九、九七一
染金	三、四九六	一、九三五	三、八八四	三、八八四	(-) 一、九八九
織金	二〇、八八八	七、二二二	三、七九八	一、〇九八	(-) 三、七六七
ボイル	一、三二七	三、三三〇	三、七九八	九、〇三一	(-) 五、七〇三
綿キャンブリック	一、三二七	六、四六八	三、七九八	五、九五六	(-) 二、一八八
擦染織金巾	七、五七〇	七、〇一一	三、〇〇〇	三、七、六九五	(+) 三、三三二
白及染布	八、六五二	九、八、五三〇	三、九三五	三、五、六七七	(+) 三、三三二

捺染ポプリン及 リムブリック フアンシーポ ン及リムブリ ック	二七、〇五九 二七、〇五九 二七、〇五九 二七、〇五九	三四、二五四	一九、三二四 一六、七一四 一三、三三六 一〇、七三八	二五、八二七 二二、七八五 一六、三〇六 一〇〇	(+) 八、四二七 (-) 一六、五二五 (+) 五、九七三 (+) 一、七〇四
綿織綿布	二、〇九〇 二、〇九〇 二、〇九〇	六、二六〇	一三、七〇八 一三、七〇八 一三、七〇八	二、七八五 一六、三〇六 一〇〇	(-) 一六、五二五 (+) 五、九七三 (+) 一、七〇四
綿肌着	九、九六六 九、九六六 九、九六六	一、八〇四	八、八六六 八、八六六 八、八六六	一〇〇	(+) 一、七〇四
綿毛布	四、五三三 四、五三三 四、五三三	四、九六一	八、八六六 八、八六六 八、八六六	六、二七九 三、二九九 三、二九九	(-) 一、三一八 (+) 九、〇五六 (+) 七、一八七
綿タオル	一、九六〇 一、九六〇 一、九六〇	一、一八五	一、九八四 一、九八四 一、九八四	三、二九九 三、二九九 三、二九九	(+) 九、〇五六 (-) 七、一八七 (+) 一、九二八
綿ハンカチーフ	二、二九九 二、二九九 二、二九九	六、八二二	三、九八四 三、九八四 三、九八四	七、八六九 一六、六二一 九、一八四	(-) 七、一八七 (+) 一、九二八 (-) 四、三〇四
捺染織及變り織	九、三九九 九、三九九 九、三九九	一八、五四九	七、四二七 七、四二七 七、四二七	一六、六二一 九、一八四 六〇、八七五	(+) 一、九二八 (-) 四、三〇四 (+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇
捺染織人絹	一、二五〇 一、二五〇 一、二五〇	四、八八〇	五、二二七 五、二二七 五、二二七	九、一八四 六〇、八七五 二、三〇九	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
變り織人絹	一、七〇七 一、七〇七 一、七〇七	四、八八〇	五、二二七 五、二二七 五、二二七	九、一八四 六〇、八七五 二、三〇九	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
平織人絹	四、八四七 四、八四七 四、八四七	九、三六五	三、七五七 三、七五七 三、七五七	六〇、八七五 二、三〇九 一、三〇五	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
自轉車部分品	七、八六九 七、八六九 七、八六九	六、五九一	三、三〇七 三、三〇七 三、三〇七	二、三〇九 一、三〇五 三、〇三二	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
晒綿	一〇、三二二 一〇、三二二 一〇、三二二	一八、五五〇	一、九四六 一、九四六 一、九四六	一、三〇五 三、〇三二 一、〇二六	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
生綿	六、九四一 六、九四一 六、九四一	五、三七八	一、九四六 一、九四六 一、九四六	一、三〇五 三、〇三二 一、〇二六	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
麥酒	二、五五五 二、五五五 二、五五五	一	一四、〇四〇 一四、〇四〇 一四、〇四〇	一、〇二六 一、〇二六 一、〇二六	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二
合計	一、二九〇 一、二九〇 一、二九〇	八、二四四	一、〇二六 一、〇二六 一、〇二六	一、〇二六 一、〇二六 一、〇二六	(+) 七、三三〇 (+) 九、〇九〇 (+) 四、二八二

右に示す如く、過般の税率改正當時に於て懸念せられた輸入品値上りの結果としての國民需要の減退は、さして憂ふるに足らず特種の商品を除いては、貿易額上何等甚しき影響を及ぼして居ない。

唯齋罐詰及び綿ハンカチーフ等は重税に依り勢からず打撃を蒙ると共に、國內工業即ちプラトリー罐詰、ハンカチーフ製造工業勃興し始めたるを以て將來の輸入漸減を暗示して居る。加糖煉乳が品質著しく改善せられ、外國品値下りに對處し得るに至り次第に當市場に據頭し初め、又暫く沈滞期にあつた陶磁器と亞鉛引鐵板が最近頗る好調を示し初めたのは日タイ貿易上誠に喜ばしいことである。

次に綿布類は捺染カロンが激増し、フアンシーポプリン及びリムブリックが激減するの傾向を生じた外、五月迄に於ては、さして變化なく格別憂ふ可き狀況も示して居らぬ。

○米人宣教師始めて入泰の事

天田六郎

タイ國に於ける外國人の文化事業の現況を視るに、最も大きな仕事をして居るのは米國基督教布教團であらう。一九二八年の秋タイ國に在る米人宣教師——其の數三、四十名にも上るが——が盤谷に集合して米國布教團渡泰後滿百年の記念祭を催した事があつた。即ち彼等のタイ國に於ける活動の歴史は今日迄に既に百十餘年を過ぎた事になる。彼等の施設しつゝある文化事業其のものゝ内容に關しては、又別に説く機會もあらうから此所には略すが、兎に角其の立派な事業を爲し得て居る、布教團は、決して一朝一夕に基礎を造つたものではなく、團所屬の各宣教師の各自永年に亘る非常な努力の蓄積が今日あらしめたのである。初期の渡泰宣教師の殆んど凡ては、自然的條件の悪い土地で凡有の不便や支障と闘つて布教團の建設の爲めに自己の健康や家族の不幸を顧る餘裕もなかつたらしい。彼等の當時の犠牲的努力を回想する時は恐らく何人も脱帽せざるを得ないであらう。

日本でも最近頻りに對外文化事業の必要が喧傳せられて居る。斯る際タイ國に於ける初期米人宣教師の活動の跡を

顧る事は對外文化事業關係者に必要なる心構を覺る上の參考ともなるであらうかと考へ、以下古文書を探りて初期米人宣教師の二、三の者の盤谷に於ける生活を描寫した次第である。

現在タイ國に於ける基督教布教團には舊教及新教の二派がある。前者は十七世紀の中葉、アユチャ朝時代既に佛人宣教師の入泰以來の歴史を有して居るが、後者は一八二八年盤谷王朝第三世ラマ王時代米人宣教師の盤谷渡來に始まつて居る。

プロテスタント派初期宣教師は三派に別れて入泰した。第一派は當時倫敦ミッシヨナリ・ソサイチー派に屬し、支那に於て布教に従事して居たトムソン、カツラフ及エビル三牧師がタイ國に於ける支那人の居住多數なる事を聞き、夫等に對する傳道を目的として入泰したもので、入泰後タイ國に於ける基督教布教の必要と且つ其の可能性に關し本部に報告して居る。

第二派はアメリカン・バプチスト派に屬せるデョンドラー・デョンス及夫人、並にウイリアムデン牧師で、又第三派はアメリカン・ボード・オブ・コムミッシヨナリー・フォア・フォーレン・ミッシヨンスに屬せるロビンソン及夫人デョンソン及夫人並にブラッドレー及夫人であつて、此の二派は共に第一派宣教師の本部に爲した報告に基き、タイ國に於ける布教を企圖せる本部の命令に依り渡泰したもので、入泰後合同してアメリカン・バプチスト・ボード・エント・アメリカン・ボード・オブ・コムミッシヨナリー・フォア・フォーレン・ミッシヨンスと稱するに至つた。

先づ第一派に屬したカツラフ師及トムソン師は一八二八年八月四日新嘉坡より支那船を以つて途中十九日間を要し

て同二十三日盤谷に着いた。當時爪哇に居た米人牧師バートハースト師も亦入泰を欲し、一八二七年暮盤谷に渡航せんとせるも果さなかつたが、後カツラフ師等の渡盤計畫を聞き馬來半島沿岸を小舟で北上しシンゴラ迄は達する事が出来たが、夫以上便船無く盤谷に達する術に窮し遂に新嘉坡に引返したと謂ふ。當時の航海の不便が思ひやられるのである。

カツラフ師等は盤谷に到着するや直に時の葡萄牙領事カロス・ド・シルヴィエラに會ひ、其の斡旋に依り葡國領事館に落着く事が出来たが、居る事二週間に於て政府の許可を受け先づ支那人の間に入つて布教事業を開始し、支那に於て用意して來た傳道書を配布する様になつた。然るに其の時加特力教徒中には米人等が支那人を煽動して謀反を企てる者だとの中傷を爲せるものがあつて、之が國王の耳に入り件の傳道書の譯文の檢閲が勅命せられるに至つた。然し其の傳道書には何等布教以外の事が書かれて居なかつたので米人宣教師は引續き傳道を許されたのであつたが、タイ人に對しては斯る傳道書の配布は禁ぜられるに至つたと謂ふ様な出来事もあつた。又其の當時カツラフ師等を庇護せる葡萄牙領事は兩宣教師の宿をしたとの廉で色々と批難されるに至つたので同領事は各方面に斡旋し結局時の外務大臣チャオビヤ・ブラクランは、當時彼の國に在留の英國商人の草分たりしハンターに命じ、兩師を新嘉坡に伴ひ去らしめんとした。之に對し兩師は其の退去命令の理由不明を主張し、且つ加特力教派に布教を許し居るに拘はらずカツラフ師を退去せしめんとする差別待遇の非を申立つると共に、飽く迄も退去を命するならば文書を以つて發令せられたき旨を強硬に抗辯した爲め外相側が折れ、結局兩師に對しては傳道書配布に一層慎重なるべきを勸告して、引續き滞在を許す事となつたのであつた。

茲に於て兩師は再び傳道を開始し支那人のみを對照とするよう努めたのであつたが、傳道の傍ら施療或は醫藥類を

無料配布の事を實行せる爲、漸次に一般の信用を獲得し支那より持參の大箱二十五個の傳道書は僅に一ヶ月程にして二箱を残すの有様であつた。斯る狀況に兩師はタイ語傳道書の必要を痛感し、自らタイ語の學習を始める一方タイ語を能くする支那人キング及補甸人ハンを得て支那語聖書のタイ語譯に當らしめた。彼此する内にトムソン師は不幸健康を害し新嘉坡に於て、加療を必要としたので、師は一八二九年五月十四日盤谷發海路新嘉坡に向つた。

一方聖書反譯事業は順調に進み、羅馬字書きタイ語聖書及英タイ辭書（但しAの部よりRの部迄）の外、老撾語東甯塞語に依る聖書をも完成し、凡て羅馬字を以つて表はされたものであつた。（當時は未だタイ語活字が存しなかつた）之等は凡て寫を作成の上當時盤谷を訪れた米人カーフィン船長の歸米に託して布教團本部に送られたのであつた。

トムソン師が新嘉坡に去つて後、カツラフ師は傳道の外聖書反譯其の他タイ語布教書作成等に對し一人して驚嘆すべき努力を拂ひ、タイ聖書印刷の事では特に自ら新嘉坡に渡航（一八三〇年二月）せる程の勞を厭はなかつたのであつたが、不幸一八三二年二月十六日其の最愛の夫人が双生兒出産に際し難産の爲め母子共に死亡して以來は、悲みの極痛く健康を害し引いてはタイ國布教に對する意力も失ひ遂に支那に歸る事を願ふに至つた。

斯くして一八三二年六月十八日カツラフ師は支那船に便乘湖南河口を去つたのであつたが、僅二、三日を遅れて新嘉坡に在つたトムソン師はエービル師を伴ひ傳道書及醫藥類を携へ再び着盤したが、既にカツラフ師の離盤を知り大いに落膽したと言ふ。

因にカツラフ師の便乗せるチャンク船は支那人シンチャンなる者の持船で、チャンクと謂つても四十名程の船員が乗組み居り、唐木、砂糖、胡椒、鳥羽毛、更紗等を積み天津に直航せんとせるものであつて、ハンター、ドーサン、マクドナル諸氏の友人達が船迄見送つたとカツラフ師の手記に述べられて居る。（因に師は、同年九月二十二日天津

白河口に着いた由である)

カツラフ師は上記の如く其の業半にして健康の爲めタイ國を離れたのであつたが、ブラッドレー師等は「カ」師の業績を絶讃して居るが、又アメリカン・ボード・オブ・コムミッショナー・フォア・フォーレン・ミッションスの派遣に依つて當時廣東に向はんとしつゝ在つたデヴィッド・エービル師をタイ國に派遣する事に決したるは、一つにカツラフ師の業績報告並に其の苦心して實地視察を基礎とせるタイ國事情報告に依つて、同布教團本部がタイ國に於ける新教傳道の必要と且つ其の可能性とを認めたとに基因するものであつて、誠に同師はタイ國に於ける其の後百年に亘るプロテスタント派布教團の、巨大なる文化事業の礎石を置いた人物として永久に記憶されるべきであらう。

前記エビル師は本部の命を受け渡盤の途先づ廣東に渡り、次で爪哇其の他蘭領諸島を巡視せる後新嘉坡に於てトムソン牧師に邂逅したので、共に相携へて英船ソフィア號に便乗、一八三二年六月十七日新嘉坡出發同七月二日盤谷に着いた。兩師は着盤の上再び葡萄牙領事シルヴィエラ氏の援助を受け前回カツラフ師が起居せる葡國領事館附近の家屋に居を定めたのであつた。

斯くて兩師は直に持參の羅馬字書タイ語に依る傳道書及藥品等を配布し大いに好評を博したので、兩師は進んで自宅に禮拜堂を設け毎土曜日説教を爲すに至つた。此の説教は支那語でなされたので聞く者は皆支那人であつた。斯くてエビル師は一八三二年八月二十五日附書翰を以つて本部に對し、タイ國布教事業の擴張を進言し更に三、四名の宣教師増派を請求して居る。

エビル師は大いにタイ國を愛し永住をさへ希望するに至つたが、過勞の爲め稍々健康を害した上折悪く未曾有の大出水あり、盤谷市街は約二ヶ月に亘つて水中に没した如き狀況を續けたので、之が一層師の健康を害ふ事となつた爲

め暫く轉地療養の必要を認め一八三二年一月七日トムソン師と共に盤谷を離れ翌月十三日新嘉坡に着いた。

エビル師は新嘉坡及馬刺加等を旅行し只管療養に努め漸く健康を恢復したので、一八三二年四月十八日單獨にて支那船に乗船、翌月十八日着盤、シルヴィエラ領事の斡旋を受ける事が出来たが、此の時のタイ國內情勢は若干變轉して居つて傳道書配布禁止の布告さへ出て居た程であつたが、エビル師は之に屈せず廣東行の支那船に託して在支布教團に對し傳道書の増送を注文したのであつた。エビル師は布教に當り先づ時間を指定して病人に醫藥を説教所に於て無料供與する方法を採つたので毎土曜日の説教を聞く者も教會に漸次多數集合するに至り、其の間に於ける師の努力と徐々ながら表はれ來た其の効果の有様に關しては、エビル師は其の手に喜悅を以つて記述して居る。

エビル師は在盤中凡有る努力を以つて布教事業に盡したのみならず、進んで貴族に交を求め其の傳道事業に有利の環境を造る事を忘れなかつた。

其の様な努力に依て一皇弟親王から特別の庇護を受ける事が出来、又同親王を通して後に布教團に各種多大の便宜を與へる様になつたソムデット・チャオピヤ・スラングの知遇をも受ける事に成功した。

エビル師の他の一つの特筆すべき事業はブンティンなる支那人をして洗禮を受けしめ、更に同氏の忠實なる助手として其の全生涯を布教事業に傾倒するに至らしめた事であらう——餘談に亘るが此のブンティンなる人物は一生を基督教に捧げ、米人宣教師等の最も良き助手となつたが、其の殆んど獨力で集め得た淨財で現在盤谷に見らるゝ宏壯な基督教青年會館の建設を完成せしめた事に依り、實に記憶せらるべき人物である。

エビル師の努力は斯くの如く實に讃嘆すべきものがあつたが、不幸師も亦過勞に因り健康を害した爲盤谷に於ける傳道事務は前記のブンティンに委し置き、新嘉坡に赴き同所にて加療の後一時小康を得て再び歸泰を志したが其の健

康は充分恢復し得ず、遂に一八三三年五月二十五日新嘉坡發英船にて歐羅巴經由歸米を餘儀なくされるに至つたのは師として實に残念の事だつたに相違ない。

之より先本部に於てはエビル師の歸米不可避の報を受け、一八三二年八月中共の後任として、ステイブン及チャールス・ロビンソン兩牧師をタイ國に派遣するに決した。

以上は第一派傳道派遣團の事共であるが他に第二及第三派遣團が米國對泰布教事業初期に相前後して入泰して居る。

第二派遣團に屬するものは既述の通りジョンデラー・ジョンズ及夫人並にウィリアムディン及夫人であつて一八三三年中緬甸より入泰して居る。最初葡萄牙領事館に同居したが後ワットロ寺院附近ナイクリンなるタイ人の所有地を借り受け住居二棟を建築した。

第三派遣團(ロビンソン及夫人、エス・ジョンソン及夫人並にデイー・ビー・ブラッドレー及夫人)が一八三五年中米國より着齎した時は直に此所に落着く事が出来たのであつた。

當時の盤谷市と謂ふものは街路らしい街路とてなく、市中の往來は主として四通八達の溝渠を小船に依つたもので、陸上の家と家との間には濕潤の土地の上に渡した小板や丸木が僅に人を通するに足ると謂ふのが常態であつた。而して市民の住家は河面の浮家から然らざれば堀割や大川に面して造りかけたものであつた。西歐人が盤谷市を美稱して東洋のヴェニスと呼ぶのは上述の様な状況を形容したものであらうが、實際はそんなものでは決してないのだつた。米人宣教師等居住の建物が出来たワットロ寺院附近は上記の様な市中でも湄南河流に近く殊に土地極めて濕潤にして汚穢言語に絶し支那人の市場サムベンが附近に位地して居た爲め乞食、行路病者等常に娯集し流行病の發生絶ゆる事無い

と言ふ状態であつたから宣教師等の住居は布教所、説教所と謂ふより寧ろ藥局病院の如き外觀を呈し、牧師等は治療や藥材無料供與を以つて傳道書配布と共に布教の手段としたのであつた。

第二、並に第三兩派遣團は共に第一の夫れと同様其の傳道手段は醫藥治療を好評(好ましくない用語ではあるが)として民衆を教會に引付ける事に努力したのであつた。斯かる努力や又彼等が傳道の上に受けた各種の不便、障害等、例へばタイ國の地理的關係や又は社會的相異の上から來る生活上の不便や不快は先づ言はないとしても、アユチャ朝の十七世紀時代から入泰布教の上にタイ國の王室や政府から庇護を受けて居た加特力舊教傳道師の連中からの敵視や壓迫やは相當堪へた所であらう事は今日でも容易に想像される。之等障害不便に打勝つて布教事業に邁進した各宣教師の熱意は誠に偉とするに足ると思ふ。而して斯かる状況は布教團に屬する各牧師は誰もが同様な經驗を持ち且つ一樣な熱意と努力を示したのであるから、茲では當時の布教團の代表的な人物のデイー・ビー・ブラッドレー師に關し稍詳述する事に依つて當時の有様を想見し度いと思ふ。

ブラッドレー師は一八三五年中着泰した。彼の日記に據るに同年中天然痘や虎烈刺が猛烈に流行したらしく、同年七月二十八日の頃には當時盤谷に於て商業を營める英人ハンターが師を訪ね來り、王城内に多數の流行病患者發生し居るを以つて之が往診方を宮内官(フンナーク家のピヤ・シー・ピバット)より依頼ありたる旨傳へたるに依り牧師はハンターと同道王城に赴きたるに、最初案内せられた病人達の居るクォーターは下級傭人や奴隸の住む場所らしく王城内と言ふに其の不潔非衛生なる状態言語に絶し、食事なども極めて取り亂したものだつたらしい有様が記載されて居る。前記宮内官は牧師が先づ奴隸達を容易に全快せしむる技倆がある様ならば貴族又は王族中の病人を治療せしむる

積りであつたらしく、夫等奴隸達は果して絶望なるか又は全快の見込ありやを牧師に對し質問したるに、牧師は何れ共斷じ得ずと答へたが如何にも同牧師を輕んぜざるかの態度を示したとて、當時所謂醫者なる者は如何はしき藥品を持ち歩き加持祈禱の如き方法を以て病人は死か全治かの何れかを斷言するので、其の斷言の仕方の如何に依つて名醫の評價の尺度となるが普通であつた事情が説明されて居る。

ブラッドレー師は一八三五年八月中等一日に百人、二百人の病人を手掛けた事が日記に記されて居るが、斯かる状態が又一つの困難を惹起したらしい。

一八三五年九月六日の日記にはハンターが來訪し米人の説教に多數の支那人が集合し、支那語で説教し又支那文傳道書を支那人の間にのみ配布する事は、何か後來騒動でも起す原因になるのではないかと言ふ不安が或る宮内官の間నికి、布教團が何れか他所へ移轉せん事を希望して居る旨を内報した由が記されて居る。

二日を置いて九月八日には又思ひ掛けざる事件が突發した。同日夕刻ハンターが獵銃を持つてブラッドレー師を訪れた際居合はしたウェルラー船長が、ハンターの銃を借り隣接せるワットコ寺院境内に入り鳩二羽を射落したのであつたが、銃聲を聞いて折柄夕刻の讀經中の僧侶多數が飛出し言葉の不通などが原因でか遂に僧侶達は多數の力で件の船長を毆打し負傷の爲め氣絶せしめた。船長の傷は幸にもブラッドレー師の手當で大事には至らなかつたが、布教團は此の事件の爲め愈々早急に他に移轉せざるを得ない事となつて、一時他の假住居に移り、曠て、外務大臣チャオビヤ・プラクラングに請ひ湄南河西岸にある其の私邸附近プラユラオング寺院前に稍大きな目の建物を造築して貰ひ之を月六十五銖にて借り受け、夫れに移る事となつて漸く落着いたのであつたが、移轉のゴタ／＼や事件紛糾に對する心勞やの爲め微瘁を患つて居た布教團員ジョンソン牧師の愛嬢に對する看護不行届で、遂に之を死亡せしめた事は一同

に取つて實に大きな精神上の打撃だつたらしい。

ジョンソン師愛嬢の病死の外にカッラフ牧師も曩に双生兒及其の母を兩方共亡くした事は既述の通りであるが、其たの他ジョンソン師も子供を失ひ別の幼兒も常に病氣勝ちだつたので、師は之をブラッドレー師に託して手當を依頼し何うも充分の健康を取戻す事が難事であつた。他にはロビンソン牧師も愛兒を亡くして居るが、斯くの如く宣教師達の子女がタイ國に於て兎角健康を害し、或は病死するの不幸を見る事が多々であつたに就いては、ブラッドレー師は當時の整谷市の衛生状態が甚しく悪かつたのは言ふ迄もなく、タイ人の無智で衛生思想と謂ふものが皆無であつた上に、牧師夫妻は日常布教事業や醫療事務に忙殺され通して幼兒の守は無學無智のタイ人女中に委するの餘儀なきに至るのが普通であつたので、上記の様な不幸を招く者が多かつたのだと説明して居るが、之が後に布教團が自力で新式學校を開設し從來全然等閑に附されて居た女子の教育に努力を向け、又病院の建設と同時に看護婦の養成機關をも附屬せしむるに至つた動機となつたのであるが、夫れは夫れとして初期の宣教師達が前にも述べた所でもあるが、土地の自然的人爲的各種の不便の外に、其の家庭にも色々の不幸を経験しながら布教團の基礎を築くに努力した事は確に絶讚に値する所であらう。

既述の如く布教團が外務大臣チャオビヤ・プラクラングの私邸傍に住居と教會を持つに至つた事に依つて、ブラッドレー師はチャオビヤの長子シット(後にチャオビヤ・スラオング)と知り合となり、各種の援助を受け得る事となつたが、又同人を通して一八三六年初には遂に王室にも出入が許される様になつて、時の皇后や王子達の病氣を治療する程に信用を博した。

當初は白人の社會と餘りに掛け離れた習慣の相異から色々の不便は免れなかつた、例へばタイ人の醫者は王族の方

方の病氣診断に當つて直接患者の肉體に手を觸れる事は許されなかつた。日本にも往時病室の隣室から遠く縁を引いて病人の脈を診たと云ふ風の話も傳へられて居るが、正しくあれであつたのでブラッドレー師も事情の不通知から誤解まで受ける場合もあつたが、能く之に堪へ其のモー・フラン(白人醫師)としての信用を確立する事が出来たのは、師の忍耐や謙讓やの上に、己を神に捧げ盡した熱心なる使徒の姿其のものを見る事が出来やう。

又次の挿話はブラッドレー師の日記に出て居る所であるが、之は當時のタイ國の社會を識るの材料となり得るであらうか。

一八三六年八月當時上は王室より下庶民全般の尊崇措かなかつた白象が病氣となつた事があつた。此の象は勅賜の高い位階を有して居たものであつて、其の病氣は何か不吉の前兆でもあるかとして國王は殊の外心痛されたのだ。宮内官は勿論政府の大官連も悉く象舎の附近に詰めかけ只管白象の苦惱の輕からん事を祈るのみで他を知らず、又顧る餘裕とて無く、偶々米人宣教師がチャオビヤ・ブラクラングに所用にて面會を願つても面會も出来ず、斯かる状態が月餘に及び結局白象の病氣は恢復したが、間もなく其の年十月十八日第一皇后薨去の事あり、國民は前の白象の病氣と結付けて此の上の不幸再現なからん事を佛に祈るに一心不亂だつたとの事であつた。

初期布教團の人々に關する事柄を詳述して居ては限りが無いであらう。ブラッドレー師許りではなく、他の何れの宣教師達も同様の熱心を以つて團の使命達成に努力したのであつた。斯くあればこそ爾來百年にしてタイ國に於ける米國布教團の事業は立派な成果を示し諸外國のタイ國に對する文化事業の範となつて居るのである。

彼等が假令佛敎を國敎とするタイ人の中より基督教に改宗せしめ得た者は曉星の如く稀であつたにしても、同布教團が現にタイ國に於て經營して居る事業——盤谷に於ける優秀なるハイスクール二、北泰チエングマイ市に在る男女

ハイスクール各一、設備誇るべきマツコミック病院、及附屬看護婦養成所、大規模なる癩療養院(他に南泰ナコンシリタマラート市にも癩療養所を經營し、之等の爲めタイ國政府より年々數萬鎊の補助金を受けて居る由)全國主要都市に在る教會附屬の診療所等——の現況を觀れば、同團がタイ國文化生活上の上に爲しつゝある寄與の偉大なる事は何人も之を否定し得ない所であらう。斯くの如き業績は米國初代の總領事として日本に渡つたタウンセンド・ハリスの最初の渡日前二、三十年の頃、不健康、且つ不便な盤谷に渡つたカツラフ、ブラッドレー等牧師達の先驅者としての不撓の獻身的努力の成果に外ならないのである。

○戦時下の日本印象記

訪日タイ國新聞記者團々員

全文に先ちて

讀者諸君及び日本の友人達よ!! 私は日本滯留二週間に亘つて得たる印象を之より御披露に及ばう。

或る友人が、私の記事を読み又私の話を聞いた後、私が日本より歸つて、いち早く親日になつてしまつた、と云ふやうなことを言つた。いや減相もないことである。日出づる國日本について、褒めそやして私はいろく書いたが、單に豪華な御馳走とか、楽しい船旅のみに感じてさう書いたのではない。個人として、私は、何時どんな立派な食事をしても、矢張り、我が國の食事程良いものはない、と常に思ふ。これは日本のみでなく、他の國に旅した時も同様であつた。けれども事實は曲筆すべくもないから、褒めて書いたまでのことである。讀者諸君はこの驚嘆すべき國を

未だ見て居られないなら、親しく御訪問されるやう願ひたい。斯く言つたからと云つて、決して私は日本の宣傳に努めてゐるのではなく、内地の同胞諸君に、現在その一舉手、一投足が全世界の視聽を惹いてゐる偉大なる隣國日本及びその國民に關し、少しく御紹介申し上げたいのである。

日の本の國

此の國の風景の美しさは、今更喋々するまでもないことで、歐米にあるものは、何んでも多少備へてゐる。白雪嶺、嵯たる山々、峨々たる岩山、巨大なる松樹、美しい湖沼、内海、瀑布、河川等、洵に限りがない。

その地味は肥沃であるが面積は日本の莫大な人口を收容するに困難な程狭小なのである。従つて國土の隅々まで、役に立つところは何處も耕作され、利用され、礦物資源も總て開發されると云ふ状態で、僅か百年足らずで世界の第一等國に伍したのもこの邊に原因がある。

日本は歐米と遠く離れた特異の位置にあり、近隣にはその獨立を脅かすやうな強國はない。支那海、太平洋及び内海に散在する無数の島々は、國防上強固な據點を形成してゐる。現在では、ソ聯との問題が常に頭痛の種となつてゐるが、その大陸軍の移動することは不可能であり、且又ソ聯は歐洲方面に於ても多事であるし、その上その海軍や微弱たるものであるから、日本は軍略上、洵に理想的な位置にあると云ふことが出来やう。

日本は巨大なる現役兵を擁してをり、豫備、後備の兵數も莫大である。其の兵器は精巧を極め、偉大なる威力を有するものである。又兵隊は、世界最優秀であるとは謂へないが、勇敢なる點に於ては世界無比と言つて良からう。即ちその骨格は小さいが、頑強な、そしてがつちりした逞しい兵士の、戰場に於ける勇敢さは、世界の等しく認めてゐる處である。

讀者諸君は、右の點に就ては、既に御承知の事と思はれるが、私の實際に見たところを記し、蛇足を加へることを御許し願ひたい。

私はこの勇敢なる兵士達が、陸續と出征するのを見た。彼等は歡呼の聲に送られて出發し、別離の涙を落す者はなかつた。實際此の場合涙を流すのは甚だ適應しない。日本の女性——母親、妻、姉妹——はその息子、夫、兄弟が天皇陛下の御爲、國家の爲に死地に赴くとする時、決して涙を見せないからである。

日本人——サムライ——には、國の爲に生命を捧げる事は、無上の光榮であり、至高の名譽なのである。斯くの如く死を見る事歸するが如き勇敢な日本兵士と戦ふ敵軍も亦眞劍ならざるを得ないであらう。

私が東京の裏通りを散歩中、偶然にも征途に就かんとする若き日本軍人の歡送式を陪觀することが出来た。

と見れば石鹼箱を以て代用した臨時の壇上に、簡素な木綿の軍服に身を包み、緊張せる青年兵士が毅然として立ち、其の傍に其の祖母及び母が肅然として立つて居るのである。其の父は恐らく數十年前の戰爭に名譽の戦死を遂げ、今や此の青年が獨り遠く戰場に赴くとして居るのであらう。彼の頭上及び周圍は、翻々として翻る幟を以て埋められ、それには、彼の壯途を祝する文字が認められてゐた。軍服の上には白い襷をかけ、それにはその兵士の姓名が記されてあつた。そして、少年、少女團、豫備備兵、愛國婦人會等が兵士に對し激勵の辭を述べ、且晴れの門出を祝すために來集し、菘栗頭の兵士は壇上で、時々叩頭しつゝ、黙々として、夫々の祝詞に耳を傾けてゐた。

私は、その感激的な光景を目のあたり見て、目頭の熱くなるのを感じた。私が若しこの兵士であつたなら、悲しさのあまり、涙の湧き出るのを抑へることが出来なかつたであらう。が併し、彼とても感情に負けてはならない、女々しき態度を表はしてはならない、とちつと唇を噛みしめてゐるやうだつた。傍に居並ぶ祖母や母が涙一滴落さぬのに

彼として、何で其のやうなことが出来やうか。私はその兵士が臨設の壇上に立ちつゝ何を考へてゐたか、能く想像することが出来た。恐らく彼は、今度の出征は此の上もなき榮譽であるが、只慥むらくは御國に捧げる命の一つしかない。希はくば幾たびも生れ變つて御奉公したい、と考へてゐたに違ひない。

今や、日本の津々浦々から何十萬の兵士が出征しつゝあるが、彼等は皆、此の青年兵士に劣らぬ覺悟を持つてゐるのである。

私の友人で東京に遊學してゐるタイ國の學生、某君は、私同様、日本兵士出征の情景に感激し、停車場などで暇のある時は、出征兵士を歡送する人々の中に加つて「萬歲」を叫び、その行を壯んにしてやると言つた。見送る人々は決して別離の涙をこぼさぬばかりか、手に手に旗を持ち、歡呼の聲をあげて見送るのである。

軍服に身を固めたそれ等の若人達は、これ皆天晴れ武人である。彼等は今や陛下の御爲に身命を捧げ、祖國の爲に勇躍戰場に赴かんとしてゐるのである。萬歲!!

東京滞在中、私は彼等兵士達が、毎日、出征のため、自動車で停車場へと急ぐのを見た。自動車は何れもその車體一杯に愛國文字を書き連ねた旗を以て覆はれてゐる。此の途上の姿、各種の宣傳及び新聞記事で始めて、此の國が他國で戰爭してゐるのが判る程である。

東京も他の都會も賑やかで騒がしく、また飲食物は豊富にある。娯樂街も客を呼んでゐたが、遠く戦地に戦ふ將兵の困苦を偲び、日本人は自肅すべしとの理由で、従前よりも早く閉館してゐる。實に大和民族は上下一致し、其の聖戰目的達成の決心は頗る牢固なるものがある。

日本は古今を通じての強國であると私は言つた。現に支那戦線には五十餘萬の兵力が配備され、更にまだ百萬の大

軍を容易に増加し得る。既に御承知の如く、日本の領域には一億と云ふ人口を擁してゐるのであるから、これは決して誇張でないことが解るであらう。

彼の日露の大戦争は既に三十五年の昔となり、歐洲の大戦以來二十五年を経過した。此の大戦に於て、日本は聯合側に立つたが事實は殆ど損害を蒙らず、却つて利益を獲得したのであつた。次で八年前の滿洲事變、これは謂はば日本の力試しであつて一種の大演習に過ぎず、連戦連勝の勢ひであつた。爾後、今次支那事變勃發に至るまで、日本の富力は非常に増大した。事變は既に二年に及んだ今日、尙餘裕綽々たるは實にこの富強を致した結果である。一年後に日本は經濟的に破産するとの臆測は全く誤算であつたのである。

櫻花咲く美しい日本で不思議な事は大多數の日本人がカメラ愛好者であるに拘らず寫眞を撮るのが面倒であると云ふことである。故に外國人は遠慮するに如くはないのである。

日本が交易し又日本人が移住してゐる諸君の到るところに、數多の日本人が寫眞屋を營んでゐるのに諸君はお氣付きであらう。タイ國に於ても、ソンクライーや、チェンマイや、バンコックの外、國境附近の諸都會にも寫眞屋を開業してゐるのを知つてゐる。私の家の近くでも或る退役大佐がやはり、寫眞屋をやつてゐるが、支那事變後、一年して息子達の後を追ひ故國へ歸つてしまつた。

日本滞在中、私は撮影するのに、いち／＼私達の案内者とか、警官に、その許可を得なければならず、非常な苦心を要した。船に乗ると、如何なる陸地にもカメラを向けてはいけなと言ふし、要塞地帯外の港灣を見渡す景色すら撮影することも出来ないのである。従つて、カメラは天空か海洋に向けるの他ない。況はんや、戰略上、重要な陸地には決して向けることが出来ない、この取締りは殆ど到る處に嚴重に適用されて居り警官がカメラ所持者のファイル

ムの一部を削除して丁ふ事がある。その理由とするところは、假令撮影禁止区域内であることを知らなかつたにしても、外國のスパイに利用される虞があるからである。慥かに日本人は外人スパイ云々を眞剣に考へてゐる。と云ふのは、外人がこのために、幾度か、問題を起したことがあるからである。

航空日本の驚異的發展

日本の戦艦及飛行機の寫眞は殆ど見る機會はなかつたが、今次の日支事變に使用されてゐるタンクや砲彈は、慥かに時代遅れのものであることが解る。斯くの如く舊式な物を使用して居る所以は、最も屈強な將卒や、最良の軍需品を、他日來るべき大戦争に備へて置く爲である。

現在の長期戦に於て、飛行機は、非常に重要な役割を持つてゐる。日本の飛行家は、其の技術の優秀なるを證し、その飛行家たるに不適なりとの妄斷を是正し得たのである。民間飛行に於ても多數の人々がスピードに、耐久に、世界記録を破らんがため、世界一周を目指して、幾度か出發した。讀者諸君が御記憶の如く二、三年前、ジョーヂ六世の戴冠式奉祝に際し、朝日新聞の「神風號」が東京からロンドンまで、三日間足らずで飛行し又昨年五月、帝國大學航空研究所建造の「世紀の翼」が一萬六千五百一十斤を六十二時間二十二分四十九秒と云ふ滯空世界の最大記録を樹立した。目下ソ滿國境附近に於ける日本空軍の素晴らしい勝利は、幾度も報ぜられるので、今はもう珍らしくなくなつて來た。二、三箇月程前、ノモンハン事件勃發以來、今週までに總計一千百一臺のソ聯機を撃墜したと日本軍は發表した。此れには、他國の軍事専門家同様、私も多少疑惑を持つのである。が今次事變で、日本の航空術の進歩が證明された事は事實である。そして日本の飛行機は世界最強にして、又最も怖るべきものであることを、廣く世界に立證したのである。

世界に挑戦する日本

此の國に於ては、海陸軍事上重要な發明は總て極秘に付せられてゐる。他の諸列強の如く、日本軍事情報局は、その所有する強力なる武器を世界に公表してゐない。殊に海軍は全く秘密の裡に行動してゐる。例へば日本の大艦隊が何處に據點を有して居るか全く知る由がない。日本へ渡航の途中、私達は僅か一隻の舊式水雷艇が海南島の首都、海口を出ようとしてゐるのを見たゞけである。歸國の途中明石山丸の船長吉澤氏に日本艦隊の根據地を訪ねたが、彼にもわからないとの返事であつた。十五年の長い間、海上生活に經驗ある船長の言葉に間違ひはない。そして「恐らく日本海軍は、現在では世界一であると思ふ」と言ひ足した。私は冗談交りに、日本の艦隊は、きつと、日本の南海岸の何處か島陰に隠れてゐるんでせうね、と言つたところ、彼は大聲をあげて笑ひ出し、「さうかも知れませんが、私もわかりませんよ」と答へた。

もし陸海空軍が眞に強力でなければ、無敵日本は、今日の様に世界相手の挑戦を敢てしなかつたであらう。日本人はその國力を確信し、團結してゐる。今次の事變に因る國民の犠牲は、大したものではない。が併し、國運を賭して邁進せんとする場合には日本國民は如何なる働きを爲すか、明白な事と思ふ。故に日本を相手にしやうとする國は先づ以て、熟慮を重ねなければならないであらう。そして如何に強大な海軍と雖も日本を襲撃することは、其の理想的な地理的位置にある關係を見て、甚だ馬鹿げた、自殺的行爲に過ぎないのである。

日本が現在友邦關係にない諸國に對する態度は、要約すれば次の如くである。「御承知の通り、日本は誇るべき國富も又、軍備もない。しかし、一旦緩急あれば、斷乎、應戰する。蓋し、戰は恐るゝ處にあらざるのみか、容赦なく、相手を叩きのめしてやるまでだ」何と明白な、且、簡潔な言葉ではないか。

渡日前、私は日本の所謂東亞の新秩序の意義に就き、殆ど知るところがなかつたのであるが、實際日本に来てみて個人的に、卓越せる人格に接し、又様々なる状態を見聞し、私は簡單ではあるが、次の様な事實を知るに至つた。日本は一億の人口を擁し、且つそれは年々増加を続け居る現狀に鑑み、速かに處置を講ずることが焦眉の急である。持たざる國」日本は過剰人口を容るゝ新領土を得、且つ、製品を消化する市場を切望してゐるのである。惟ふに製造原料無くして、生産業は興らない。生産せざれば商品市場に送ることは出来ない。貿易が無ければ、國家の機構總ては崩壊の道を通るのみである。だから原料品を獲得し、好適な市場を見出し、商品を賣り捌かなければならない。そして、もしそれを拒むものがあれば、武力を以てしてもその念願を達成しようとするのである。今や日本はその生存權の確保を主張するのみならず「アジア人のためのアジア」と云ふモットーの下に、自らアジアの盟主となり、アジア諸民族の安寧幸福の擁護者たり、仲裁者たり、商品の補給者たらんとしてゐる。もし歐米諸國がアジア諸國との通商を望むなら先づ日本に一應の挨拶をしなければならぬことに成らう。斯くして日本を中心として、アジア諸國は對歐米諸國と均等の地位に於て、自由に貿易を營むに至るであらう。

少くとも私には明瞭に、左様に見えたのであるが、他に自分と同意見の人があるや否やは、自分の知る處ではない凡そ何れの協議を見るも徒らに時日を費して、儀禮的言辭を以て應酬してゐるが、之に代ふるに明瞭、卒直、而して虚心坦懐に所見を披瀝すれば、如何程、國家の事務を簡便にし得るであらう。

今日、日本の熱烈に要求する處は、諸外國の支那に對する援助は斷念せよ。然らざれば、場合により武力に訴へることになるであらうである。日本は今や斷乎たる態度に出でんとして、只管適當なる機會の到るを待ちつゝあるが

日本がひと度寶刀を抜けば東洋、否、全世界は一大戰渦に巻き込まれるであらう。私は此の意味に於て、日支事變の終局は只時の問題であると思ふものである。(中略)

見當外れの抗議文

日本印象記の筆を續ける前に、再び、本文は宣傳を目的として書いたものではないこと、及び之が私の日本に關する印象記の最後のものであることを讀者諸君に明らかにして置き度い。本文發表以來、私に對して多數の脅迫や讒謗の投書が來たが、其の爲に本文の結末を急ぐ意圖は毛頭ない、私は既に日本の諸事情、東亞に於ける目的、果敢勤勉なる國民等に關する印象を充分に書いたと信するので本日をして之を終へる次第である。

周知の如く新聞の機能は公衆に報道することである。新聞記者として斯かる任務ある私が此の困難な仕事を始めたのであるが、私の記事は一部の讀者を憤激せしめた。數ある投書の中には、激昂の餘り或は新聞紙法に抵觸し、或は外交關係を擾亂する虞れあるため、紙上に發表することが出来ぬものがあり、又私が日本の贅を盡した御馳走攻めで「脳味噌を無くした脂肪の塊と化した」とか、「日本のものなら何でも結構だ、立派だと盲信する程日本酒に酔拂つたらう」と云ひ、或は「日本の某有力新聞に買収された」等と云つて非難するものすらあつた。斯かる見當外れの抗議は私には寧ろ滑稽にすら感ぜられるのであるが、私の記事が一部國民に不安動搖を與へてゐることを知つて私は甚だ遺憾とする。但し、之も今日限りで明日からは何の不安も必要としないであらう。

誰しも歐羅巴の一、二文明國を巡遊したことがあれば、日本が世界第一の美しい國だとも驚嘆すべき國だとも思ふものはないであらうが、日本が完成した驚く可き長足の進歩を認めぬ譯には行かない。世界列強は今日の地位を築き

上げるのに數世紀を要したが、日本は遙かに短日月に此の地位を獲得したのである。

ペルリ提督

有名なる亞米利加のペルリ提督が、世界各國に門戸を閉じて三百年間太平の夢を食つて居た日本に渡來し、「開國」を迫つたのは今から約八十年前のことである。之は西曆一八五三年に當り、次の様な滑稽な挿話が残つてゐる。或る時ペルリ提督が大勢の日本人を艦上に招待して饗應したことがあつた。御馳走の中に出た冷凍果が非常に美味しかつたので、日本人は土産にしたいと願ひ出た。ペルリは之を快諾したので、彼等は持參の懐紙（現代に於ても日本人は常に持つてゐる）を出して果物を包み始めた。提督は面白がつて見てゐたが、やがてそれを止めて、果物の氷が溶けて着物をよごして了ふと説明した。

日本は其の後間もなく國産機械で製氷を初め、今日では製氷機でも冷凍機でもどしどし海外に輸出し得るに至つてゐる。ペルリ提督が若し今日まで生きて居ても、勿論此様な冗談で日本を瞞す譯には行かないであらう。亞米利加人はどうか知らないが、日本人はペルリに非常に感謝してゐる。實際、半世紀を経ずして日本は中世的國家より逸脱して素晴らしい發展を遂げ、遂に一九〇四年露國を破り、押しも押されぬ一等國となつたのである。

扱て、私は之は有益な歴史であると信ずる。我國民が日本歴史を充分に研究し、之に刺戟され、刻苦奮勵せんことを切望する。我等が眞剣に努力すれば日本が成し得たことを我等が成し得ぬと云ふ理由はない筈だ。我國は過去數世紀以來歐洲諸國と國交を續けてゐるが日本が西半球を知るに至つてからは僅かに一世紀未滿である。我等が日本及び日本人を知ることがは有益であり、斯かる傾向が國內に見られるのは喜ぶべきである。盤谷——日本航路の汽船には常に一、二名のタイ國留學生が日本に向つて居り、其の數は既に二百名に達し、益々増加してゐる。因に今年の暑中休

暇を利用して留學生十五名が歸國して居たが、全部先週の船で日本へ出發した。

以上に於て私が努力した點は全然宣傳的性質を含まない、日本に對する見た儘の報告をなすといふ役割を果すことであつた。既に日本の自然美、日本の現状と何故日支事變を敢行せねばならなかつたかの理由（日本は急速に發展したので、外部に伸びなければ爆發して了ふ）、東亞に於ける新秩序の建設、友邦ならざる列強に對する態度、等に關して述べたから、次に日本の國民性を述べて見よう。

日本人

日本人は我等が我國をムアン・タイ、我國民をコン・タイと云つてゐる様に、日本、日本人と稱してゐる。

日本に上陸すれば日本のものを、日本的なものを澤山見受けるのは當然なことである。私は上陸第一歩にして日本は日本人の國であることを痛感したが、之亦至極當然なことである。日本に居て外國的なもの、外國製のものを探し出さうとしても困難である。勿論全部國産で、中には日本に於て製造する價値なしとしてゐるものもあるが、之は實際數へるに足りない位の少數である。

風采の立派な日本男子と云ふものを私は今度の旅行中でも、今迄にでも殆ど見たことがないが、婦人は日本の着物を着てゐる時は本當に美しい。その體格が歐洲人と全然違つてゐるから、海水着姿の男女は見ないことである。前にも述べたように日本人は頑丈で、骨格は逞しいが小柄である。瘦せて空腹を抱へてゐる様な背のひよる高いのは殆ど見當らず、大抵はすんぐり肥つてゐる。

是迄にも屢々言及したように日本人の食事は簡單である。確かに單純な食事は剛健な身體を作る。食事の爲にあれこれ大騒ぎをしないし、食事を作るにも食べるにも餘り時間をとらない。従つて仕事の時間が充分多くなるから、私

は日本國民の偉大さの原因の幾分かは食事の簡易なことにありと信じてゐる。彼等は卒直單純で、簡易な生活を営み而も猛烈に働く。日本の失業者数は大したものではない。國民は僅少な収入に甘んじ、汝々として業に勵み生活費は簡易なため頗る低廉である。

大和民族に對する誇り

日本人は英國人と同じく大和民族が萬邦無比の民族であると信じてゐる。この信念を常に誇示する譯ではないが、日本人が斯く確信してゐると云ふことは誰にでもすぐ分る。日本語は支那語と同様頗る複雑な國語で、其の數も幾千萬語に達し、讀み書きは甚だ困難である。この爲に青年をも含めて國民の大多數は眼鏡を掛けてゐる。

日本人は卒直で親切であるが、戰場に於ては頗る勇猛、殘忍である。祖國を愛する熱情は死の恐怖より遙かに強大であり、天皇陛下に對する忠誠は、何ものとも自己の生命をさへ捨てる事を喜んでなす程絶大である。一方宗教心深く、平和を愛してゐる。治安の保護者、警察官は國內に於ては殆ど取締の要がないので、街頭を巡邏する代りに、交番に配置されてゐる。

外觀上、日本人は取立て、云ふべき所がないが、假令諸君がその賢明さを認めて居る場合でも、日本人はそれ以上に賢明だと眼鏡の奥から自信の眼を光らせてゐる。日本人が感謝の念を表はさうとする時は頗る丁寧で、始終笑顔を作つて齒と齒の間から息を吸ひ込む。商人は誠實で、商品の値を一定してゐるので外國人に對して不正なことはしない。日本人は聰明ではあるが、物分りは仲々手間が取れる。其の代り一度會得すれば、其の理解は深い。獨創力に恵まれてゐないが、何でも模倣するのは巧みで、ウキスキー、ジンの類似品も、本物の軍艦も製造することが出来る。一、二種の國產自動車もあるが、概して自動車は亞米利加製を、生産國近く、豫備の部分品豊富で、價格頗る低廉な

ること等の理由から愛用してゐる。然し交通機關は多くバス、電車、汽車等を利用してゐて、百萬長者の内にも自動車を持つてゐない者が多い。

男子は結婚すると其の妻を家庭内に閉じ込めて置く。(娘等も家庭に止まつてゐなければならぬとされてゐる)夫が觀劇に妻を伴つて喜ばせると云ふことは殆どなく、集會や社交場へも自分一人で出掛けるのが普通である。首相夫人は首相と共に公園を散歩する等といふことは勿論、レセプションにも出席しないので、各國外交官の内でも夫人に會つたものは殆どないと云ふ程である。

妻は斯かる状態であるが、現代の娘達は補頭を潤歩してゐる。多數の女性が家庭を出て職業戦線に活動してゐる。スポーツを得意とする者が多く、オリンピック選手として出場した者も尠くない。代表的な婦人團體、愛國婦人會と國防婦人會は合計二百萬を超える會員を擁し、祖國と將兵を擁護して「銃後の護り」を固めてゐる。

忠義

日本人が 天皇陛下の次に絶大なる尊敬を捧げてゐるものは軍人である。戰場に赴く出征兵士に對して民衆は政治家に對してよりもすつと遙かに畏敬の念を抱いて居る。一寸街を散歩しても出征兵士にお辭儀をしてゐる民衆を隨所に見受ける。日本人は感激の湧出する時は必ず宮城に赴き遙拜する。特に國を出る時、歸つた時は先づ第一に宮城へ行くのである。國民は斯くの如く、實に陛下に對し奉り忠良であり、僅少な報酬に甘んじて勤勉に勞働し、而も世界各國の勞働者に比して大した不平も抱いてゐない。

日本が偉大なる國である原因は國民が勤勉であるからである。(勤勉とは國民が心から満足して熱心に働くのを云ふ) 震災や水害に見舞はれて、荒廢の中から立上ること屢々である日本人は實に不屈不撓の國民であり、細やかな生

活の慰安で十分に満足し、至極従順に指導に従つてゐる。

日本には二つの主要階級——支配階級と労働階級——がある。後者は支配階級が與へるものは何でも易々諾々と「呑み込んで」ゐる。斯くてこそ日本は、其の國民並びに帝國を急速に偉大なる發展を遂げしめるに足る豊富なる労働力を得ることが出来るのである。

既述の如き理由から日本には労働争議が殆ど見られない。その内でも最も主要なる理由は、陛下に對し奉る絶對的な忠誠である。即ち日本人のストライキは工場内の仕事の放棄であり、工場の活動を停止すればその結果國家の發展を妨害する。國家の發展を妨害することは、陛下の御意に反し奉り、延いては争議を起した労働者は、陛下の御意に反し奉ることとなり、これは叛逆罪にも相當するのである。それ故に日本の労働者はストライキを敢行することが出来ない。萬一ストライキを起す様なことがあれば近所の人からは絶交を申渡されるか、又は「ハラキリ」をしると刀を渡される。

日本を支配する軍部

日本の中産階級の存在は殆ど見當らぬ位ではあるが、國政を執る支配階級、及び世界各國相手の尨大なる貿易を行ふ實業家、富豪、資本家等に協力してゐる。茲に於て數年前の英國戴冠式に使用したユニオン・ジャック旗は實に日本製であつたことを注目すべきである。

日本人は殆ど政治に関心を有して居らない。政府要人の大部分は軍部の出身であるから日本は軍部の支配下にあると云ひ得る。事實日本は過去に於て殆ど陸軍の支配を受けて偉大なる發展を遂げたのである。

扱て私は日本に關して充分に述べた。本文を結ぶに當り、大阪商船、三井物産兩社に、今次の訪日旅行が非常に自

由で愉快だつたことを深く感謝し度い。實際我一行の様に、日本の實業、新聞、政治各方面の有力者に下にも置かぬ歓迎を受け、一般旅行者には許可されない場所すら屢々視察の便宜を得た旅行は、千萬金を投しても不可能なことである。旅行中に拜眉の榮を得た凡ての方々にも對しても、その御厚情と御親切に深甚の感謝を捧げ度い。

(タイ・クロニクル紙連載)

○非常時の日本

(八月十二、十三日タイ字紙スパープブルス連載)

何處へ行つても國民に貯金をさせる廣告が貼られてゐる。この廣告は容易な事ではないだらう。公園にも大道、小路にも、亦、學校などにも「皇軍萬歳」「貯金奨励」のポスターが貼られてゐる。此等廣告の費用は政府から支出するばかりでなく、工場商店等が協力して製作奉仕したものである。例へば臺灣にて筆者が觀たのはアド・バルーンに愛國公債募集の文字がブラ下つてゐた。事變のため尠少となつた物資では鐵、銅、護謨などで、軍需品となる品目は價額暴騰し、ために代用品が盛んに現出してゐる。例を擧ぐれば鐵製電柱を倒して代用としてコンクリート製の電柱を樹てゐる。この様な物資の缺乏はどの程度まで逼迫してゐるか判然しない。何と言ふても諸物價が昂騰したが殊に煙草が著しく高くなつた。一箇十二錢と十五錢とあるが此等の種類をタイ國で買ふと六、七錢位で得られる。煙草は誰でも販賣出来るものではなく、政府專賣局から販賣許可を受けたもの丈である。この外、外國煙草は吃驚する程高い。タイ國の三倍位高い。筆者の日本に滞在した當時、煙草はどの店にも拂底してゐた。國民は外國煙草を餘り喫はない。それは純國産を好んでゐるし又、外國品は高いからである。煙草の拂底は戰地へ送つてやるためである。政府

は事變下に必要なものは節約を強制してゐる。例へば石油は使用量を統制し、タクシーなどにもガソリン使用制限をなし一日の使用量を六ガロンと限定してゐる。若し一日六ガロンを消費し盡すとガレージに歸らねばならぬ。而して翌日又、六ガロンの配給を受ける。而して乗客は通行税十錢を拂はねばならぬ。タクシーには料金のメーターが装置してある。最初の一點廻轉料に三十錢、四十錢、五十錢とあるが府縣に依りて等級が異なる。車が駛り出したら料金メーターが廻轉し始め數字の示す通り料金を支拂ふ。時速五十哩で四十秒、若くは四十五秒毎に十錢を加算する。料金は市内と近郊とに分れてゐる。大體近郊の方は稍々高い。それは歸る時、乗客がなかつた時の埋合せからである日本のガソリンは我國よりも安い。どんな苦しい目にあつても非常時下に國民が一心一體となつて國家のために盡してゐる。誰一人として政府の窮屈な遣り方を批難するものは居ない。これは日本國民が不自由に慣れてゐる愛國心が熾烈であるからである。日本では娯樂慰安の機關たる映畫館、劇場杯、午後十時限り閉館させることにしてゐる。その以後は街路はヒソソリとして淋しくなる。東京を始め大都會には飛行機搜索用の探照燈が空に放射してゐる。又防空演習は一週間も行はれる。其他、種々の行事は嚴肅に行はれてゐるので感嘆せずには居られない。それは日本國民が一致協力してゐるからである。

支那事變勃發以來、多數の愛國團體は激増した。會員も數百萬に亘り、國內到る處に支部を有してゐる。而して非常時の勤務に従事してゐる。此等の會員は年齢の如何を問はず國家に役立つ人を以て網羅してゐる。會員は所屬團體から利益、報酬を受けてゐない。只管、國家のために勤勞奉仕してゐる。愛國團體から出征軍人に莫大なる慰問金が贈られる。又商店其他から相當の國防獻金が捧げられてゐる。例へば名古屋の伊藤（次郎左衛門）氏など多額の出費をなして戦死者遺族達を慰めてゐる。遺家族に住宅を供與し、又各々の才能手藝に應じて學校教師、裁縫師、製帽業

等の就職を斡旋する。京都杯では愛國團體を糾合し山嶺に忠靈塔を建立し勇士の冥福を祈つてゐる。又、京都の富豪二名が相背り戦傷勇士の休養所建設費として二百萬圓を出資した。政府も之に協力援助して議會に於て三千五百三十萬圓を支出可決し、遺族や戦傷勇士保護費に充て先づ本年第一期事業として戦傷勇士療養所二十五箇所を建設した。而して外に二箇月間入院することの出来る病院を十箇所設立した。本年にありて戦病者は三千人を算へた。陸軍病院建築中は戦病勇士を臨時に普通病院に收容してゐる。この外、凱旋したものは大抵、花柳病に罹つてゐるので之が豫防全治費として一千三百萬圓を支出してゐる。即ち療養設備として九十四箇所の病棟建設の計畫である。歸還勇士にして花柳病を保有するものは治癒する迄は除隊をさせない。長期戦にも不拘、國民は未だ落着いてゐる。彼等は政府の發表する所を信用してゐる。而して遺骨の出迎や、歸還兵士の觀迎に熱誠である。又、出征兵士のあるときは家族達は町内の人々と共に見送りに行く。この外に種々の會員や學校生徒等も歡送し國歌を謡ひ、出征兵士の武運長久を祈る。これを見た出征兵士や家族達は感激して義勇奉公を誓ふ。

大都會では國民の心を引締める様な行事が行はれ、軍事に關係のある展覽會が催される。斯かる行事に對しては國民はどんな遠くからでも縦覽に來る。而して催し物杯は二、三箇月も續いて晝夜、賑やかである。亦、日本軍が鹵獲した戦利兵器杯を態々陳列して國民に見せる。斯かる事を催すには數萬圓の費用を要するのだ。斯くして常に國民の心をして舉國一致に向はしめる様に努力してゐる。海軍杯では陸上作戦、空中作戦の展覽會を開催して兵器に一々説明を附し國民をして一目瞭然、兵器に關する知識を鼓吹してゐる。

其の外、軍事に關する子供の讀物は澤山ある。幼い子供でも支那が何處にあるか、又、支那政府とはどんなものかを知らないものは無い。斯かる事は政府の方で整備して將來の國民のために軍事知識を教へ込んでゐる。而して事變

の結果に善處するために軍隊の一死報國を示して國民の愛國心に訴へ國防貯金をなさしめる様に努めてゐる。

七〇

○佛印及び新興タイ國を訪ねて

専修大學南洋事情研究會

神 田 正 三

七月卅日西貢丸乗船神戸出帆、船中にてタイ國に暑中休暇利用歸省又は歸國する留日タイ國學生十數名並びに在留邦人數氏と相知つた。船客中には京都第一商業一井教諭が居つた。同氏はタイ國教育狀況視察に赴かれると云ふ。航海中に在留邦人諸氏から旅行中の注意を承り、タイ國學生からタイ語の必要語句の教へを受けた。國民の關心が支那大陸に集中されて居る様だが今少しく眼界を展開して南方に向けて友邦タイ國に每航十數名の渡航者を要望したかつたこの意味に於て一井教諭の渡タイに敬服した。臺灣を経て海南島沖にかゝりし頃、暑熱加はり油汗の滲むを覺えた。甲板に立ちて海南島を雲煙模糊の中に望み、興亞聖業のために勇戦善闘する將兵の勞苦を偲び、思はず目頭の熱するを覺えた。前線將兵の言に據れば「臺灣から慰問袋が来るが内地からは少しも來ない。若し内地から寄贈して頂かれば慰問品として講談本とか美人寫眞杯を熱望する」と。

八月七日海防入港、午前六時頃より船の右舷に屹突たる岩島連立せるを見る、それより暫く行くとソンコイ河に入

る。左右は茫礫として何萬町歩あるか一寸見當のつかぬ程の大三角洲を望見した。デルタと云へば必ず對句として地味肥沃と來るのが地理の定石だが、此處も其の例に漏れず雜草の葉が紺に近い色を呈して、土地の肥沃なることを物語つてゐる。而も此の廣大な土地を少しも利用することなく放置し唯地平線迄、雜草の藍色で塗りつぶしてゐる。平原には一軒の家もなければ一棟の牧舎もない。河原の中迄植林したり野菜を作る日本と較べるとき、唯々驚くの外ない。今は増水期で上流は氾濫して交通不能とのことだが、斯く廣大な三角洲が水面上にある以上、之等は四季を通じて利用して差支なからう。これが利用方法に就ての意見は後に譲らう。

ソンコイ河を廻ること三時間半にして海防埠頭に着く。音に聽く援將の據點、海防それは憎惡の餘り堂々たるものを想像してゐるが、實際は想像に反し、貧弱なもので事變の爲に急造したと覺ゆる板張の棧橋、税關の設備すら満足なものはない。然も、此の貧弱な設備に對し英・米・佛、七八千噸級の商船が殆ど航路を塞ぐばかりに蝟集して、徹夜で荷役をしてゐる。卸してゐるものは言すと知れた援將武器である。上陸して見ると埠頭、上屋、練兵場から街の辻々に至る迄、廣場と云ふ廣場、空地と云ふ空地にはトラックだの、鐵道レール、架橋材料だのが足の踏場もない迄に並べられ(ざつと三萬臺もあらうか)タイヤ、ピツチ、硫酸、セメン樽等が山と積まれ、入れ處なきまゝに雨曝しになつて居り、中には武器を満載して美國羅省華僑統一拒日後援會敬贈(米國ロサンゼルス)と書かれた赤十字車が數十臺もあつた。埠頭の近くに蔣政權の金穴、香上銀行の支店が頭張つて國民政府の經濟政策を代行してゐる。又之は盤谷も同じだが、大概の支那人商店には孫文及蔣介石の額が正面に飾られ、商品には青天白日章と商戰報國の文字が誌されてゐる。斯んな風で上陸の第一歩から、佛印に對する印象を悪くし、買ひたいものも買はず町全體を焼拂つてやりたい様な痛憤を覺えた。更に吾々の感情を刺戟したのは、苦力が足りないのを口實に吾等の西貢丸だけ何時迄

たつても荷役を始めず、後から来た英國船の方がどん／＼先にやる。やつと二日目に始めたと思ふと、八時から十時迄仕事して、十時から二時迄晝休をする。而も英佛の船舶はそんなことなしに、どし／＼と仕事を續けてゐるのだ。斯んなことで七日に入港即日、出帆豫定の處四日間滞留の止むなきに至つた。之は苦力が土人で反日感のない以上、當局及請負が日本船に損をさせようとする悪意から出たことである。一日の待船料二千五百圓と推算して三日延發で七千五百圓、船價償却、配船のデマレーヂを勘定に入れたら、恐らく數萬圓にもならうか、之は今日に於ては「營利業者たる大阪商船のみの損失でなく、日本國帑の損失であり、又船腹不足の一原因ともなつて、國內物資の需給策から軍需輸送力に迄、影響するのだ。斯かる露骨な反日態度を取りながら、日本から援蔭行爲に對する抗議が行くと、左様な事實なしと嘯ぶく、之あるが爲にどれだけ多くの忠勇なる日本將兵の血が、大陸の土に注がれたであらう。將又、彼等の利益の爲にする政策が如何に多くの日支青年の生命を奪つたであらう。單なる白人奢侈の爲の利益と生物の第一條件たる生命とどちらが尊いか。斯う思ふと胸を掻き捲しられる様な氣がする。そして勿論對露策を忽せにしてはならぬが東洋平和維持には、南方政策の確立にあり」と云ふ吾等の年來の主張に確信を強くした。

叔大分管々と感情的なことを書いたが、此の邊で海防の見聞記に移らう。街は道路から造ると云ふ佛蘭西人の特徴を現はし、鳥渡、甚盤の目の様に區切られた道路、路面を蔽ふ亞米利加合歡、榕樹の並木等に良く釣り合つた白人の住居、それ等が赤い斜陽を受けて、苦むした煉瓦敷の歩道に、タイヤの摩擦で照ら／＼と艶の出たコンクリートの歩道に長く長く投影してゐる。土民の搾取に依つて成り立つた都市だ——と思ふと街の美しさにも却つて憎惡の念を増すが、兎も角しつとりと落付いた氣持の良い町で、通りを歩いて居ても何んだか公園にでも散策して居る様な氣がする。それ等の街路を黒の支那服に似た長い着物を着、齒を黒く染めて頭に黒布を纏まとひに幾重にも巻き重ねた東京

人男子が尺八の様な煙管（根竹に火壺の穴を穿ち先の方一節だけ残り他の節を抜いたもの）を銜へて、逆も悠長に歩いて行く。向ふから空色の長衣を着て頭髮を七三に別け、それを後で纏め、頭をぐるつと一卷きした女と同色の着物に絹布（風呂敷位）を奇特頭巾の様な具合に被つた乙女と人力車を連べて來たが、多勢の乞食に附き纏はれた吾々を見て何か喋りながら過ぎ去つた。波止場から眞直行つて、勝利の女神の下に無名戦士が横はつてゐる大戦記念像の所から右に曲り暫く、更に左折すると支那人町に出る。此處は又何と雜然としてゐることであらう。白人町の整然たるに反し、歩道の幅が廣くなつたり狭くなつたり、車道面に敷き詰めた煉瓦が禿げたり缺けたりして凸凹である。丸で物置の様に、ごて／＼と商品を並べてある。支那人店を、どんな物を賣つて居るのかと奇異の眼を輝かせ乍ら、一軒々々覗きながら歩いて行くと、ブーン／＼ドンガ／＼と喧ましい音が聞える。何んだらうと思つて見ると、チンドン屋に出合つた、日本なら縦旗を先に立てる所を、縦、一米に横一米位の誰團扇に文字を書いて擔がせて來る。之が二、三組續く、後から廣告文字を書いた布で圍んだ馬車の上で笛・太鼓を鳴らし、最後に乞食小僧が臨時に備はれてピラ撒きをしてゐる。町の見物も賑きたので、橋を渡つて郊外へ出る。並木で蔽はれた眞直な道路の兩側は、眞青な水田だ晴れ渡つた空に赤蜻蛉が二三匹、一叢の竹の間から飛び、コ、椰子が四五本スウィツと伸びて上の方で鳥の羽根状の葉を擴げ、其の樹の下蔭にニツバ椰子の葉で葺いた土民家屋の屋根だけが見える。黒の支那ツボンに上半身裸體の農夫が牛車を牽いて來る。見ると牛の脊椎骨の一端が肩の邊で二十種ばかり突起して居り、其の突起に車の轆を引掛るだけで、引かせてゐる珍らしいので寫眞に撮りにかゝたが此所は寫眞を撮るのが非常に喧ましい。水田は全部濕田で所に依つては河と田との見別けの付かぬもの半分もあり田の面を土民が竹で編んだ小舟にて乗り廻つてゐる。

始めて踏む外國の事故總べてが物珍らしく、斯うして土民の奇風俗など一々書いてゐたら際限がないから、此の邊

にて、佛印の貨幣に就いて少しく記述しよう。佛印では政府發行のものにピアスター、セントがあり、安南王府發行の一厘錢も通用してゐる。ピアスター紙幣は東方匯理銀行發行一元（エンと發音す）伍元等と印刷してありセントも士民は仙の字を當て、センと發音するから買物の時など、ひよつと日本貨幣を使つてゐる様な錯覺を起す。日本との換算は出發の當時一ピアスターが日本で九十七八錢であつたが、佛印では外貨を通した場合一圓が九十仙にて換算し、日本金を以つて直接ピアスターを買ふことは全々不可能である。即ち他でも同じことであるが、日本金貨は外地で無價値にて買の場合西貢で百圓が二十三ピアスターであつた。之は日本の出先銀行が圓買をやらぬこと及び二百圓以上の紙幣輸入を日本政府が許可制とし實際、個人に對しては許可しないことに起因してゐる。之の策に付いて私は從來面白からぬことと思つてゐたが、此の地に來て始めて圓の對内價値を維持する爲止むを得ぬことが解つた。勿論今それに付いて説明すれば差障りが起るかも知れないし、又茲處ではあまり必要のことでもないから省略する。歐洲に動亂が起つた今日では其の必要もないか知れないが、當地香上銀行支店の活動狀況を見て法幣切崩しの爲、又華僑の反日態度を變へる爲、法幣をフロートさせ其の不安を宣傳すれば良いと思つてゐたが、外國と取引ある支那の銀行（外銀の支那支店を含む）を押えることが絶對必要であることに氣付いた。何となれば華僑が本國へ送金する場合、それが蔣介石への獻金でなくとも其等の銀行が蔣の色彩を持つ以上、直ちに蔣政府の外貨資金となり又華僑の家族が之等銀行の取扱に依つて生活の安定を得て居る以上、彼等と蔣政府との絶縁は望み難いからである（勿論之は外國租界内のものを指す）。

八月九日河内總領事館を訪問す。その序でに吾々日本人の憎惡的である蔣露の憤越線を覗く。英佛東亞擾亂の手先、蔣政權が沿岸封鎖に遭ひ、廣九鐵道・廣東・海南島等の外界との連絡路を次々に失ひ、四川の山奥に籠りながら依然として抵抗を續けるのは新疆、雲南、ビルマ、憤越の三蔣露路ある爲であることは今更言ふ迄もないが、ソ聯新疆ルートは途中に反共蔣露的回教徒の割據あり、ビルマ・雲南ルートは山嶽重疊として未だに建設期を脱せぬとすると蔣に對する最大の輸血路はどうしても憤越と云ふことになる。實際専門家の推算に徴しても、このルートが最も多量に輸送してゐる。然らば之が實狀はと云ふに、之も海防と同じく複線廣軌の堂々たるものを期待して居たが見ると單線狹軌で實に遅く、六輻か七輻の貨車を前後に機關車をつけて運行させてゐる。之の列車で後からと來る海防の武器軍需品の山を片附ける様は丁度瘦馬に重荷をつけて追立てる様なもので、十五年の日子を費して建設したと言ふには餘りに貧弱過ぎる。佛印政府も廣東陥落以來の活況に眼を廻してか足元から鳥が立つ様な慌て方で複線工事を急いでゐるが、工事に當つてゐるのは極く悠長な東京人で、鐵とシャベルで泥を積んでは蟄築を兩手で持つてこつ／＼と築き固めて行く、之が昆明に達して汽車が通る頃には、蔣は冥府の人となるだらうと思つて見て來たが、それから間もなく歐洲の一角に起つた風雲は此處にも低氣壓を呼んで海防にある支那向軍需品は一切輸出禁止と云ふことになつた。自分で欲しくなつたのか、それ共日本の勢ひが恐しくてか、疾うに禁止になつてゐるものを、更に禁止してゐる。そして行きには馬鹿に突見吞だつたのが動亂勃發後の歸りには、日本人の機嫌取りをする様だ。然も要所々々にはバリケードを築いて日本軍の來襲今や遅しとビク／＼してゐる。河内は佛印總督府、日本總領事館のある所で海防よりすつと町が綺麗であると云ふだけで記述を止めやう。

八月十日海防發十一日カムラン附近通過、海岸一帶近代生活に絶對不可缺なるガラス原料、硃砂で山をなし厓をなして強い熱帯の陽に眞白く輝り返つてゐるが、之の無限の富を利用することなく極く稀まに日本船が船足補填に積取るに過ぎない。

八月十三日西貢着。此處で下船、同夜三井西貢支店に御厄介になり、其處の自動車にて西貢及びシロンの市中を案内さる。西貢シロン共に人口約十五萬、西貢は佛人を中心とする政治都市・市街の美麗なることは夙に有名で小巴里の稱あり。公園の中に建てられた家、林の内に建設された都市と云ふ感がある。シロンは佛國統治の當初各地に散在してゐた有力支那人を集めて作つた純然たる商業市で、華僑の商業網に、あらゆる産物が此處で集散されるのである。殊に此處は製米の中心地でメコン全流域の米が大小幾多の水路に上つて此處に集り、粃穀を燃料とする製米機により精白され華僑の手によつて廣東・廣西・福建等、佛蘭西の勢力範圍に輸出されるのである。斯んな風だから今次事變により彼等の蒙つた打撃は絶大であつたらう。兎も角此の平野の産米輸出能力年約百七十萬噸、此の米を積んだ船を通す爲、市内の橋は一部分水面から五米位の高さの太鼓橋になつて居て、早いトラックより極くゆつくりと橋を漕いで行く、船の方がすつと重要な運輸機關であることを物語つてゐる。聞く處によれば、シロンの町を壓する精米工場の持主も元は一本の天秤棒に家財道具を纏めて祖國を逃げて來た支那人であると云ふ。壓迫されながらも之だけの蓄財力を發揮する支那人の底力を我大陸再建政策に先立つて念頭に置く必要があらう。

西貢の町を見物した後、あるホテルで晝食を取つたが其の時、隣のテーブルに居た二、三の佛人青年が盛に吾々を追ひ出す様ボーイに言ひつけてゐる。度々なので癢に障つたので鐵拳を飛ばし兼ねない勢で彼等を睨んだ處、下を向いて黙つてしまひ、食事が済むとこそ〜と行つてしまつた。些細なことだが弱いくせに虚勢を張る佛人の對日態度として、又彼等の外交が此の様なものと思ふと、切齒扼腕の情に堪へぬと共に憐むべきである。

翌十四日午前六時三井の方々に對する挨拶もこそ〜に出發、アランヤに向ふ。乗賃はブノムベン經由政府の郵便バスで西貢アランヤ間十四ピアスター三〇セント、沿道は佛印第一の米産地たるメコン河の大デルタだけあつて、一

望無邊の水田である。然し之が耕作法は東京平野のそれよりも更に幼稚で、田の面を平にして平均に水を引くことを知らず、唯土地のなりに稻を植える爲、高い田にあるものは水不足で立枯にしてゐる。之が全體の七割もあらうか。低い田にあるものでも用水近くのものはずつと元氣よく伸びてゐるに反し、他のものは道芝位しか伸びてゐない。若し田へ水を引いて稻を潤したならばすつと良く育つものを、用水には水牛の背を洩する程分量の水が流れてゐるにも拘らず少しも田へ引かうとしない。之の様は悠長なやり方でありながら、年五、六萬噸の粃を産するのであるから若し日本の技術を以てしたら僅に二千萬噸は間違なからう。交趾支那を抜けて南カムボヂヤに入ると、今迄の粘土質から、黄赤色の火山質の土に變つて來る。之がゴム、珈琲、甘蔗、煙草等の耕作に最適の地帯であるとのことだが、見ると五軒から十軒平方もあらうかと思はれる荒地が斷續して居り、極く稀にゴム園があるのみである。又、所に依つては唐黍が野を越え山を越えて遙か地平線の彼方迄、別に土地を耕すでもなくたゞ種を蒔き散した丈で、森を避け河を廻つて作られてゐる。之が此の地方住民の常食である。其の年産約六十萬噸、土民の食残した四十一萬噸内外が歐洲に向け輸出されたと云ふから、大したものである。日本では無水アルコールやカラメル、酒類の製造原料たる甘蔗が缺乏してをり、煙草がなくなつて愛煙家が苦しんだり米の需給も心細くなつたりしてゐるが、此處を利用したら其等の問題は一邊に消し飛んでしまふであらう。

正午ブノムベンに着く。尾行の土人巡查が吾等を當地唯一の日本人商店大南公司に案内し、家人を呼び出してくれたのには少し意外の感じがした。此店の主任は陳佳源氏、半島人であるが立派な大和民族になりきり、其の國家觀念の強いのに敬服させられた。ブノムベンはカムボヂヤ保護國王宮の所在地であり、また商業の一中心地で、涼しく心地よい高原地帯にある。同夜大南公司に泊り、翌十五日午前六時出發、土民兵五人何の爲か同車して來た。町中を

駛つてゐる時は何んだか煙たそうな態度だったが、人里離れてから急に親情を示し、煙草や菓子遣り取をする様になり、或る所で支那人が乗車したら實弾を示し射たうかと云ふ、件の支那人は青くなり蒼惶として次の停車場で降りてしまつた。餘程佛蘭西に對する感情や、若し日佛戦が行はれた場合の向背等を聽かうと思つたが、スパイが付いてゐるので中止した。詰らぬ冗談事にもせよ、佛印土民の眞の對日感情が窺はれた。西貢を出てからは橋が皆、自動車で輻輳して一杯であつたが、之は時々自動車の速度を落さして事故を防ぐ爲だと云ふが、實際は白人兵を駐屯させてない佛蘭西が反亂の場合交通量を制限し、又は橋を切落して其の傳波を防ぐ爲であらう。コムボントムで晝食、午前十時から午後二時迄晝休。此附近へ來ると濕地と荒地、ジャングルとの連続で初めて吾々の目的地を發見した。早魃の際の灌漑利用方法を考へ、一人心の躍るのを覺えた。

午後三時四十分シムラーブ着、ニュー・シムラーブホテルに投宿、此處ではボーイもマネージャーも英語が通じるので少しも不便はない。直にホテルの自動車でアンコール見物に行く。

アンコールは約九百年前此の地に築えたクメール族の王城、當時繁華であつたらう商業街も悉くジャングルの底に埋もれ、粉黛に妍を競ふた後宮三千の美女も總て土と化し、今は探ぬるに由すもなく、唯冷たく碧空に聳ゆる梵天の像が有りし昔を偲んで涙する如くである。方十軒にも及ぶ城郭が空虚となり住む人もなく野狼の聲が遠く反響し、暗い廊下に行く時、蝙蝠が、ばさつと顔を撫で、一層凄味を添へる。アンコール記事は諸種の雑誌に既に紹介されてゐるので省略する。唯ブラピスの附近の垣根が鐵の鑛滓で出来てゐることは何の本にも載つてゐない。勿論、之が製作は十一、二世紀のことであり、東京・安南の北部では昔から土法による製鐵が行はれてゐたらしいと云ふから、クメール族が鐵を使用したことは異とするに足りないが、王宮の一部に鑛滓が使つてゐる以上、王室所有の製鐵所、兵

器廠等が有つたことであらう。そして今は鬱蒼たる大樹に蔽はれて猛獸毒蛇の巢窟となつてゐる所の何所かに昔鑛山があつて其邊から製鐵所迄毎日澤山の捕虜に鞭打つて鐵鑛を運ばせたのではなからうか。更に高二百尺方十軒の石造の大王城を中心として諸方の植民地(當時暹羅迄歸屬してゐた)に軍道が四通發達して。此の無人の高原一帯が當時は印度支那半島文化の中心地であつたらう。

城春にして草木深し、噫々、若し彼等カメン盛なりし時、此處に住つたとしたら誰か今日見るが如き荒廢を想像し得たであらうか。然も此文化が微動だもせずともなく思はれたであらう。クメール族をして今日の如き状態に導いたものは何か。それは極度に侵潤した小乗佛敎の反戰的主義もあつたらう。多くの異民族を支配した結果、劣性民族との混血もあつたらう。然し茲に特筆しなければならぬのは古埃及や羅馬のその様に爛熟し切つた文化が不健全な方向に流れて全民族を懦弱にし遂に剛健なるタイ人により征服されるに到つたことである。斯のことは現在東亞の盟主として世界に重きをなす日本も深く念頭に置いて將來高度の文化を保持しつつも、強健な體と、熱烈な民族愛を持ち續ける様、今から心がけねばならぬ。

此處で一吋参考のためアンコールに於ける費用のことを誌さう。ニュー・シムラーブ・ホテルは宿泊料三ピアスター、食事朝五十仙、晝と晩は一ピアスター、アンコール巡覽の自動車代四ピアスター(タクシードと八ピアスター)アンコール・ワットで入場料一ピアスターを取られる。此ホテルは部屋も綺麗だし費用も少なくて済むので至極學生向である。此他にグランドホテル、印度人、支那人經營の宿屋あり、グランド・ホテルは宿泊料一〇ピアスター位、他は一ピアスター一五〇仙位で支那人、印度人のは食事が付かないので外で取らねばならず、夜半南京蟲の襲來がある

と云ふので一寸吾々には附合ひ兼ねる。

翌午前五時ホイイに起されて朝食も胃に收まり切らぬ内、再び車上の人となりアランヤに向ふ。此車は西貢アンコール迄の車臺よりすつと良く、然も吾等の朝食を待つて三十分延發してくれたのだ。

沿道は荒涼として際限なき大草原で、空には鷲やインコ、其の他名も知れぬ鳥が高く低く群れ飛んでゐる。午前九時アランヤ着、此處で佛印と別れてタイ國に入るのだが、ソ満國境では死闘に次ぐ死闘が續けられ、日々尊い犠牲を出してゐると云ふのに、此邊は又何んと悠暢な國境であることよ、眼の届く限りトーチカらしいものは一つもなく、佛印側では褐黄色の服に裸足、頭巾を被ぶつた兵隊が鐵砲を逆に擔いでのらくらしてゐる。反對備は流石に新興の意氣に燃えてゐる國だけあつて、日本兵とソツくりの身成りをし、キリツとした顔をしたタイ國の歩哨が立つて居る。けれども險惡な空氣等は棄にしたい程もなく單に踏切一つ越せば別の主權者を頂いた國になると云ふ状態である。

借て此處で愈々吾々の今次旅行の最終目的であり、大亞細亞民族運動の見地から見ても最大の期待を掛けたタイ國に付き記述することになつたが、此の誌上に於て解り切つた泰國事情に付、今更喋々する要もない、又餘り詳しく書いてはタイ國に取つて迷惑となるかも知れないので、唯極く簡単に滞在中の感想だけを述べさせて貰はうと思ふ。

先づ入國第一歩に感じを良くしたのは税關の態度であつた。同行支那人の荷物は底迄掘返して見たが、吾々のはこちらから税の掛りそうなものを出して説明した物以外は見ようともせず、開けやうとした靴も「よい」と言はれた程であつた。又、佛印では何所へ行くにも旅券を調べられたが、此處では國境を越すとき調べた丈で、他は一回も調べず。尾行の刑事も附かず、出發に先立ち多少指導を受けたタイ語も役に立ち、大抵の者には英語も通じ言葉に不便がなかつたので非常な寛きを感じ、本當に兄弟の國へ來たのだと云ふ氣がした。思へば三千年の昔し東と南に袂を別つて蒙古平原を後にした此の二民族が今も血の縁りを感じ、共に亞細亞復興に力を注ぎ出したとは祖先の導きでもあらうか。

特に吾々が嬉しく感じたのはアランヤ・盤谷間の車中であつたが、タイ國の陸軍少佐位の軍人が全然、見知りもないのにバツと立つて吾々に敬禮してくれたことで、此國の指導者たる軍人が斯の樣だから革命後、親日タイ國の生まれたのも左こそと思つた。

盤谷からチェンマイ迄の車中、向側の學生や英語の話せる人達に取り圍まれ十二時前に寢たことはなかつた。彼等は吾々と語り得ることに誇りを感じて集るのだ。特に日本語の二つ三つも知つてゐるものは非常に得意らしく見える。彼等の一人が御世辭にユー・アール・ベリイ・ヴェニテイフルと云つたのでタン、ソワイ・マークとやつけたらワハ、と笑ひ出し非常に親密になつた。そこで彼等の聽かうとする日本文化について話し、日支事變の眞意を聽かせ、彼等の文化を批評し、努力すれば日本の如き強國になれることを説いて、最後に日本と手を取つて亞細亞復興に邁進しようと思つたら、眼を輝かせて聞いてゐた。此時知つたことは彼等の對日認識は一般日本人が想像してゐる程でないことである。例へば前述の知識階級と云はれる部類のタイ人から日本に飛行機があるか、市電があるか杯、糺ねられたので、此國の機關車も盤谷にある軍艦も大部分日本製で、日本には市内電車所か地下鐵だのケーブルカーがあり日本の普通列車がタイの急行より早いこと、飛行機は學生迄が操つると言つたら、眼を圓くして驚いた。此の認識不足はミッシヨン・スクールや新聞雜誌で白人が日本を野蠻國の様に教へ込むのと、日本の紹介雜誌が少しも近代的日本を紹介せず、田舎風貧、昔の風俗、公園ばかり寫真に載せることに因る罪である。日本は此點もつと考慮し新聞、雜誌、映畫には學校、醫療等の文化事業に大いに力を注がなければならぬと思ふ。

次に邦人二世の教育機關が不備なこと、日本婦人が彼の地に嫁に行かぬ爲、在留邦人は止むなく其地の婦人と

結婚し子供を日本語で教育しない爲、あたら雄志を抱いて波濤萬里を渡つた青年も空しく第二世を土着人に同化させてしまふことで、之も考慮を要する一つの急務である。

滞在中の一日を割きタイ國を訪れる日本人の必ず一度は杖を曳くアユチヤの舊都及び日本人町遺跡へ赴いた。話に聞いた山田長政の社は思つたより小さく田舎に見る稻荷様の祠位しかない。あれ丈人口に膾炙された英雄の事蹟を傳へるものが之かと思ふと感慨殊に深く四百年昔の先驅者が此處に眠つてゐるのだと考へて懐しみの情が湧いて來る。歸りに其の懐しさと在留邦人を守てくれる様にと云ふ意味で訪問者署名簿に左の詩をかきつけて來た。

其の昔ありしと傳ふ 日の本の
益良武夫を引きつれて 南の果ての此の國の
若か若かし 世は又來り
いや幸ありや 吾が國民に 吾等もが

此の國が米の一方作をする爲、華僑の制壓を免れぬこと。寺塔を金張にする程金が澤山ありながら英國の經濟勢力下を脱することの出來ぬこと。其他幾等もこの矛盾があり、之を救ふ様、指導するものは日本以外にないと云ふことを痛切に感じて來たが、餘り長くなるので省略する。

終りにタイ國が東亞ブロック建設の一環として日本に協力し、日本はタイ國を導いて經濟獨立に至らしむ様主張し日泰關係の愈々親密ならんこと、在留邦人の多幸とを祈念して此の稿を終ることとする。

雜報欄

○タイ國の中立聲明

九月八日夜、經谷國立放送局は英・佛・獨の三箇國語を以て歐洲動亂勃發に對し中立の聲明及びタイ人並にタイ國內在住の外國人も同様の見解、即ち中立を堅持すべしとのメッセージを放送した。

○タイ國名の漢字

タイ國の名を假名書にしてゐるが、漢字の當字を使用する場合は「泰」に統一することに決定した旨、九月廿三日外務省より發表があつた。

○タイ國外務省秘書局長に對し叙勳

長き邊りに於かせられては、日泰親善關係増進に寄與したる

タイ國外務省秘書局長チョート・ローハナ氏に對し左記贈勳の御沙汰があつた。

タイ國外務省秘書局長

チョート・ローハナ

贈勳五等双光旭日章

○タイ國華僑の動向

最近タイ國に於ける汪兆銘支持の運動は漸次發展の兆を示し之が爲、蔣介石政府は狼狽し之が打開策と抗日運動の徹底化を圖るためにタイ國中華總商會々頭曠光炎の來訪を求め曠光炎は會頭秘書蘇宗澤を帶同し急遽昆明に向け飛行機にて出發、同地に於て蔣政府の要人と種々懇談し歸來せるが去る九日夜廣東省梅縣出身にして當地華僑間に於て汪兆銘に最も理解を有すると云はれる總商會監察委員にして當地財界の有力者たる伍佐南(五)は抗日テロの犠牲となつた。犯人は直ちに其場に於てタイ

國官憲のため射殺されたが、ためタイ政府は背後關係を嚴重
捜査すると共に近く華僑に對し斷乎たる處置に出づるべく閣議
に於て決定せるため當地華僑間に恐怖を來たしてゐる。(十月十
三日三井タイ空着電)

○タイ國華僑の巨頭暗殺さる

タイ國中華總商會主席僑務委員廣東省參議員にしてタイ國
華僑の巨頭たる蟻光炎は十一月廿一日午前零時半(日本時間)
盤谷の繁華街に於て何者にか射殺された。犯人は未だ逮捕され
ざるも最近タイ國華僑間に支那事變に關して意見の對立を生じ
暗闘を續け居れるが蟻光炎はこの犠牲となつたものと想像され
る。(盤谷廿二日發同盟)

○亞細亞銀行の華僑銀行繼承

今般タイ・シンヂケート團が華僑銀行を引續く目的を以て組
織せられた。この社團中には現職相ルアング、プラディット・
マヌダン、プラチュット・アクソテ、ラックシヤナ、デューン・
ブンナック博士及びジュンハ・ビンダノダの四氏が關係し居り
尙、タンマサツ文政大學、國有財産管理局等の半官團體が援助

八四

してゐる。前者は實本金額の五五%なる百萬銖以上を引受け後
者は三五%を殘る一〇%を各個人間に分配引受けることにな
つてゐる。

新會社は華僑銀行の建物を使用し、家具調度等を二一、五〇
〇銖で買収した。この亞細亞銀行は將來創立さるべき國立銀行
とは別個のものにて普通一般の爲替銀行と同様の營業をなすも
のである。

○タイ國盤谷に於て邦品

見本市開催

日本優良物産協會及タイ日本商工會議所主催タイ國公使館後
援の下に十二月八日より一週間、盤谷市、憲法祭博覽會内日本
館に於て本邦優良生産品見本市を開催することとなつた。出品
申込は十月五日を以て締切たるが出品々目は主として電氣製作
品、電氣器具、自動車タイヤ、部分品、電線、ベイント、電池
金錢登録機、鋼珠、漆器、陶器、金屬工業、樂器、管樂器、農
業用品、種子、帽子、インキ、騰寫器、理化學機械、寫眞用品
高級美術織物、ゴム製品、眞珠、顯微鏡、光學機械、七寶美術
品、鋼鐵家具、機關車、踏機、一般高級雜貨である。

○世界周航機「ニッポン」號

タイ國に寄航

大毎、東日の世界周航機「ニッポン」號が八月廿六日東京出
發颯程五二、八〇〇キロを翔破十月廿日無事東京に歸着したる
が十月十七日午後零時二十五分(日本時間)タイ國ドンムアン
グ飛行場に着陸した。この日飛行場にはタイ國側よりルアン・
アック大佐を初め官民多數の歡迎あり、日本側より村井公使、
田村、鳥越兩駐在武官ほか、在留邦人多數の出席があつた。同
夜タイ國經濟省の歡迎宴あり、十八日午後十時十分より廿分迄
の十分間、盤谷國立放送局より大原親善使節、中尾機長の兩氏
が日本に向け國際放送をなした。

尙、盤谷日本タイ協會副會長アラ・ビットサリ氏より「ニ
ッポン」號タイ國寄航に關し左記要旨の書信を本協會常務理事
三島通陽子爵に寄せられた。

昭和十四年十月十七日

盤谷市ナップララン街二二號

日本タイ協會副會長アラ・ビットサリ

日本少年團理事長三島子爵閣下

本日十四時三十分中尾氏操縱の世界周航機ニッポン號ドンム

アングに着陸、小生は日本タイ協會長を代表し之を出迎致候其
際村井倉松閣下より大原武夫氏以下ニッポン號乗組員八氏を小
生に紹介し被下たるに付小生より各位に生花頸輪を贈呈致候尙
夕刻燃料局、商務局は乗員一行、日本公使、同公使館員、日本
商社主任其他をラチャタニ・ホテルに於ける歡迎晩餐會に招待
小生も列席致候

タイ國民全般は今回日本航空機が世界周航に於て示せる技術
が西歐人に劣る所なきを知り眞に欣快に不堪、更に東洋の諸民
族は今回日本人が斯くの如き名譽を全世界に顯揚せる時之が直
に東洋民族全般の名譽となるを識るべき所に有之、小生は此機
會に於て日本國民の一層の繁榮を祈る次第に御座候 敬具

○大日本航空輸送會社の「大和」 號日泰間航空路開設試驗飛行

日泰の交通日を益ふて頻繁となり行くに鑑み大日本航空輸送
會社にては臺灣迄の定期空航路をタイ國迄延長の計畫を樹て、
關係國との間に諒解成り十一月廿五日前七時十一分、輸送機
「大和」號は羽田飛行場を出發、試驗飛行の途に就いた。

八五

○國際文化振興會のタイ國憲法祭紀念博覽會に山車其他を出品

財団法人國際文化振興會にては三越製作に係る山車一臺並に同會製作壁畫寫眞及映畫「現代日本」及「スポーツ」等を十二月下旬開催のタイ國憲法祭紀念博覽會に出品することとなつた。尙ほ右山車は十一月一日より三日迄日本橋三越本店に於て一般の展覧に供し又其他の寫眞、映畫等は十一月六日同會に於て下見展示並映寫會を催したる上十一月十一日神戸出帆明石山丸に搭載タイ國に向け發送した。

○タイ國文部省に本協會より兒童教育映畫一卷を寄贈

會て帝國兒童教育會より「日出づる國の子供」と題する映畫一卷をヒットラー・ユーゲントに寄贈したるが、内容は我國年

中行事に兒童の無邪氣なる日常生活を織込みたるものであつて日本の兒童教育を海外に紹介するには適當なるものなりと思はるゝを以て、當協會にても日泰文化提携の一助として同映畫にタイ語譯タイトル説明を附して調製し、駐泰村井公使の手を経てタイ國文部省に寄贈すべく十一月十一日神戸出帆三井ライオン明石山丸にて積送した。

○タイ國看護婦四名本邦に於て修業志望

盤谷日本タイ文化研究所より九月廿三日附書面を以て左記四名看護婦として日本に於て修業志望に付紹介斡旋方（各自依頼狀及證明書添付）本會へ申越たるが機部美知博士の配應に依り來朝の上は順天堂病院に於て修業せしむることに決定した。

記

- 一、ブワン・ソーマケータリン 廿四歳
- 二、ブラバイ・キシット 廿九歳
- 三、ブラニー・ナークアクラウ 十七歳
- 四、アンチャラー・チャナバイ 十五歳

○東京外國語學校にタイ語本科復活設置方陳情

轉近、タイ國關係の官廳、會社よりタイ語の熟達者を採用し

度しとの申込頻々として來れるに鑑み本會にては昭和十五年三月よりタイ語本科の募集を行はれんことを十月卅一日付文書を以て河原田文相、作田文部政務次官、大村文部次官、小林文部省教學局長官、關口文部省専門學務局長宛陳情した。

尙ほ海外貿易振興會にては本年一月三十日附タイ語本科復活募集方を荒木文相外四名宛に陳情し置きたるが十月廿七日附文書を以て更に河原田文相外四名宛再陳情を提出した。

又、三井タイ室よりも同様十一月十一日附文書を以て河原田文相外四名宛、同様要請する所があつた。

○衆議院議員のタイ國視察團

衆議院議員タイ國視察團一行十三名は十月十四日神戸出帆大阪商船西貢丸にてタイ國に向ひたるが途中、西貢經由、アンコール・ワットに立寄り十一月一日午後盤谷に到着した。十日間タイ國滞在、十四日午前、國際汽船香久丸にて新嘉坡を出帆、

二十二日正午神戸入港歸朝した。尙ほ一行十三名の氏名左の通りである。

衆議院議員

（團長）

- | | |
|-------|-------|
| 櫻井兵五郎 | 山川頼三郎 |
| 高橋泰雄 | 山本厚三 |
| 大石倫治 | 飯村五郎 |
| 古島義英 | 大野伴睦 |
| 須永好 | |
| 書記官 | 屬 |
| 鈴木菊男 | 山野雄吉 |
| 嘱託 | 案内役 |
| 加藤正男 | 山口武 |

○盤谷駐在高瀨總領事歸朝

盤谷總領事高瀨真一氏は九月六日神戸入港大阪商船西貢丸にて歸朝された。尙ほ、同氏は九月十八日附にて外務省調査部第一課長を命ぜられた。

○盤谷駐在武官齋藤中佐歸朝

盤谷駐在武官陸軍歩兵中佐齋藤二郎氏は新任駐在武官砲兵大

佐田村清氏と更迭し十月二十九日歸朝された。

○大阪商船盤谷出張所長の更迭

神戸支店次席に轉勤の前大阪商船盤谷出張所長竹田眞昌氏は先般赴任の瀬戸屋熊治郎氏と更迭此程歸朝された。

○三木榮氏歸朝

タイ國文部省藝術局に在勤三十年の三木榮氏は南洋協會總會に出席のため九月六日神戸入港大阪商船西貢丸にて歸朝した。歸朝の砌、先般岡崎氏招致タイ國學生旅行團に加はり來朝したるウドム及パヤットの兩留學生を伴はれた。滯日用務を終へ十月十四日神戸出帆歸任された。

○新任タイ國駐日武官來朝

十一月十一日タイ國海軍少佐ルアング・ソンプラナ氏は新任駐日武官として來朝された。

○タイ國人士の往來

八八

△ルアング・ヂヤムニ・コラカイン 經濟省郵電局購買課長技師、九月十五日神戸入港來朝、二十四日東京縣出發、二十九日神戸出帆盤谷丸にて歸國。

△ルアング・ラッタカワート氏 外務事務官、九月末入京、學事觀察を終へ十月十四日神戸出帆西貢丸にて歸國。

△サバステイ・マポール氏 山林局技師、九月末入京、林業觀察の目的を以て約二箇月本邦滞在の豫定。

△タナツト・ナバ氏 内閣事務官九月末入京、學事觀察を終へ十月十四日西貢丸にて歸國。

△ビヤ・スーバン・ソムバット氏 前駐日公使、家族同伴十月初旬來朝、目下東京九段野々宮アパートに滞在中。

△ビヤ・アリ・ダルンバルガ氏 チュラローンコーン病院院長十一月中旬來朝、帝國ホテルに滞在、各病院、醫療施設等見學中。

○大阪日暹貿易協會の改稱

大阪日暹貿易協會は十一月一日より大阪泰國貿易協會と改稱した。

協會記事

○三井物産盤谷前支店長高月

喜右衛門氏並に三木榮氏歸

朝歡迎午餐會開催

九月十日正午滿鐵「あじあ」に於て八月中旬歸朝したる三井物産盤谷前支店長高月喜右衛門氏並に南洋協會總會出席のため九月六日歸朝したる三木榮氏歡迎午餐會小宴を催ふした。

○高瀬總領事、天田通譯官

歡送午餐會開催

十一月二十五日正午、滿鐵「あじあ」に於て去る九月六日歸朝せる盤谷總領事高瀬眞一氏及十二月上旬、盤谷帝國公使館に歸任する通譯官天田六郎氏の歡迎及歡送午餐會小宴を催ふした。

○本會經營目白タイ國學生會

館在館生氏名 (昭和十四年十一月現在)

學生氏名	入館年月日	通學學校其他
タオ・チャック・ス・ラクシヤ	昭和五年十月一日	高田第五小學校
ブラサート・ヘマチャン	同 五年三月三日	早大工科專門部
ソムバット・キツタサンガ	同 五年五月六日	高田第五小學校
ビモン・ハタジツ	同 五年八月四日	早稲田國際學院
フウン・コクダラケール	同 五年九月九日	日本語學中
バンダオ・サラタナ	同	同
サロチャ・プラトマラタナ	同 五年十月卅一日	同
ソンチツト・アナンドサンタ	同 五年十一月廿五日	同

○會員移動

其の後左記三君が新に本會へ入會せられた。

(通常會員) 三木 榮君 (盤谷) 日本タイ文化研究所主事

(同) 新田 義實君 (大阪) 三菱商事株式會社員

(同) 宮崎 藤次郎君 (新潟) 島本鐵工所事務取締役

八九

○會員の消息

- △近衛文磨公(會長) 今般財團法人同仁會々長に就任された。
- △三荒芳徳伯(常務理事) 十月廿三日貴族院議員北支皇軍顧問團として神戸出帆の東亞海運長江丸にて天津に向ひ十一月廿三日歸京さる。尙ほ同伯は十一月十四日結成の東京市警國奉公隊指導總監に就任された。
- △酒井忠正伯(理事) 十月十七日阿部内閣農林大臣として親任さる。
- △徳川昭順公(評議員) 九月十七日東京驛出發、日本赤十字社副社長の資格を以て朝鮮本部大田委員部開催の社員總會に出席、次で日赤主事會議に出席、朝鮮各地陸軍病院を慰問歸京された。
- △八田嘉明氏(通常會員) 九月十三日東京商工會議所會頭に就任さる。
- △藤山愛一郎氏(通常會員) 九月十八日日本糖業聯合會理事を辭任さる。
- △中山太一氏(通常會員) 十月十九日貴族院研究會に入會さる

○寄贈圖書

- 左の通り各々寄贈を受け厚く感謝する次第である。
- 1 The Directory for Bangkok and Siam(1930-40) 一部 タイ國駐在日公使館
 - 1 Siam To-day (April B. E. 2482) 一部 倉田猛郎氏
 - 1 Contemporary Manchuria (Vol. II, No. 4) 一部 滿鐵東京支社
 - 1 日本在留タイ國學生會々報第三號(タイ語) 一部 日本在留タイ國學生會
 - 1 在タイ國日本人會々報 一部 三木榮氏
 - 1 鯨谷案内記(三木榮) 一部 三木榮氏
 - 1 タイ童話(三木榮) 一部 三木榮氏
 - 1 タイ國に於ける華僑(滿鐵東亞經濟調查局) 一部 滿鐵東亞經濟調查局
 - 1 南洋華僑と福建廣東社會(滿鐵東亞經濟調查局) 一部 同局
 - 1 佛領印度支那に於ける華僑(滿鐵東亞經濟調查局) 一部 同局

一、比律賓に於ける華僑(東亞經濟調查局) 一部 同局

一、上海共同租界と工部局・附土地章程並附則(野口謙太郎(渡邊義雄) 一部 野口謙次郎氏

○財團法人日本タイ協會
總裁及役員並職員

- 總裁 秩父宮雅仁親王殿下
名譽總裁 アテイット・デバヤ・アバ殿下
會長 公爵近衛文麿
名譽會長 駐日タイ公使 ビヤ・シー・セナ
同 駐タイ國日本公使 村井倉松
副會長 侯爵徳川頼貞
理事長(代理) 伯爵二荒芳徳
常務理事 伯爵二荒芳徳
同 伯爵三島通陽
同 子爵三島通陽
同 矢田長之助

- 理事 伊藤次郎左衛門
同 男爵大倉喜七郎
同 子爵岡部長景
同 鶴見左吉雄
同 南條金雄
同 村田省藏
同 矢田部保吉
同 古田俊之助
同 淺野良三
同 伯爵酒井忠正
同 醫學博士 北島多一
同 三好重道
同 工學博士 門野重九郎
同 井上雅二
同 犬丸徹三
同 侯爵細川護立
同 伯爵徳川閑順
同 公爵崎久次郎
同 河井彌八

評議員
 子爵加藤泰通
 文學博士 高楠順次郎
 子爵 黒田長敬
 倉田猛郎
 正木直彦
 江口定條
 榎並充造
 出淵勝次
 安住伊三郎
 北島多一郎
 醫學博士 關屋貞三郎
 遠山正義
 高久正義

日本—盤谷航路定期出帆表 (昭和十四年十二月分)

大阪商船會社

三井物産船舶部

盤谷丸	一月二十八日	一月二十九日	一月三十一日	二月一日	二月三日	二月四日	二月七日	二月十日	二月十三日	二月十五日	二月十七日	二月二十日	二月二十三日	二月二十五日	二月二十七日	二月二十八日	一月五日
横濱	名古屋	大阪	神戸	門司	基隆	海口	海防	西貢	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷
明石丸	一月二十九日	二月一日	二月三日	二月四日	二月七日	二月十日	二月十三日	二月十五日	二月十七日	二月二十日	二月二十三日	二月二十五日	二月二十七日	二月二十八日	一月五日		
横濱	名古屋	大阪	神戸	門司	基隆	海口	海防	西貢	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷	盤谷

備考 兩社共來年のスケジュールは未だ作成されてゐないため、十二月分だけ茲に掲載することとした。

